

特277

932

特277-932



帝國
教授

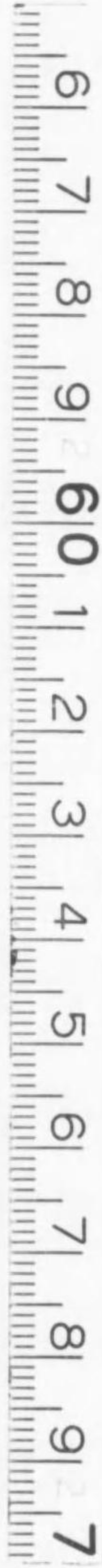
荒木光太郎述

(非賣品)

貨幣論 第一分冊

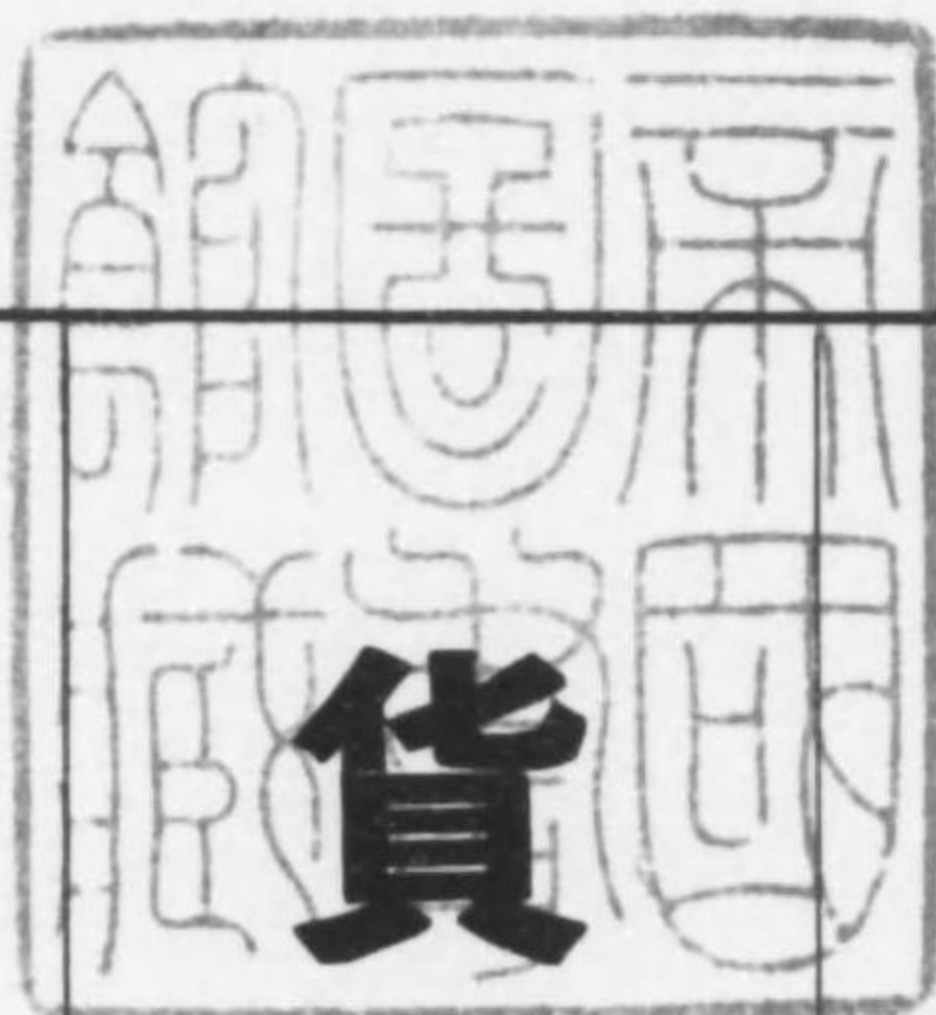
昭和十二年度
東京帝國大學經濟學部講義

版社精文



始





東京帝國
大學教授

荒木光太郎述

(非賣品)

幣論 第一分冊

昭和十二年度

東京帝國大學經濟學部講義



緒言

荒木教授の「貨幣論」の講義は同氏著「貨幣と物價」を参考文献として講述されるが、本プリントのみでも充分であると思惟する。同教授の御講義は極めて速調であるが、編者は凡ゆる苦心を拂つて忠實に正確に片言雙句を也懈怠せず筆記したのであつて、大方諸賢の御満足を得るかと心秘かに信ずるものである。

尚、過去の試験問題を輯録し諸賢の御活用を冀望する次第である。

76W10873



主なる参考文献

- 荒木光太郎著 現代貨幣問題
- 全 貨幣制度概説
- 全 貨幣と物價
- 全 貨幣ノ單位ニ関スル一考察
- 全 各國貨幣制度概説
- 全 經濟學論集ニモ諸論文アリ
- 橋爪明男著 貨幣理論
- Esterlin 著 貨幣原論
- Knieps 著 貨幣論
- Knappe 著 貨幣國定説

貨幣論 第一分冊 目次 (昭和十一年四月—五月十八日迄の講義)

——試験問題——

第一篇 概説 一頁

第一章 序論 一頁

貨幣研究ノ態度 一頁

國体ノ觀念 三頁

國体經濟 五頁

交換ノ必要ト貨幣ノ發生 六頁

第二章 貨幣ニ関スル理論的研究ノ歴史 一頁

I 初期ノ貨幣理論 一二頁

II Adam Smith 以後ノ貨幣理論 三一頁

II 政刑大戦以後ノ貨幣理論 三六頁

第二篇 貨幣ノ基礎的概説 四二頁

第一章 直接交換 四三頁

第二章 貨幣ノ發達 四六頁

第三章 貨幣制度ノ確立	六一
第三節 貨幣ノ職能	七一
第一章 職能ノ種類	七二
第一節 貨幣ノ本源の職能	七三
第二節 貨幣ノ派生的職能	七六
I 價值ノ共通ナル表示者或ハ標準	七六
II 價值表示ノ手段	九七
III 支拂手段トシテノ職能	一〇〇
IV 資本トシテノ職能	一〇九
V 消費貸借ノ目的物トシテノ職能	一一〇
VI 財産ノ一方的給付手段トシテノ職能	一一〇
VII 價值貯藏手段トシテノ職能	一一二
VIII 貨幣ノ國際的職能	一一四
IX 結論	一一六
第三節 貨幣ト財貨	一一六

荒木教授

貨幣論 試驗問題集

昭和四年三月

- 一、次ノ二問中一問ヲ擇ベ
 - イ、金本位制ニ於ケル金地金ノ職能
 - ロ、貨幣ノ価値尺度トシテノ職能
- 二、次ノ四問中二問ヲ擇ベ
 - イ、金塊本位制
 - ロ、補助貨幣
 - ハ、法定平價
 - ニ、自由鑄造

昭和四年六月

金銀兩本位制ノ作用ヲ論ゼヨ。

昭和五年三月

- 一、左ノ中ヨリ一題選擇
- イ、金本位制ニ於ケル金貨鑄造ノ意義
- ロ、價值尺度ヲ論ゼヨ
- ニ、左ノ中ヨリ二題選擇
- イ、物岳貨幣
- ロ、法定平價
- ハ、貿易外收支
- ニ、公差

昭和五年六月

- 一、金本位制ニ於ケル金ノ國際性トハ如何ナルコトヲ意味スルカヲ論ゼヨ
- ニ、イ、公差
- ロ、補助貨幣

昭和六年三月

- 一、金産出ノ減少ト金本位國ニ於ケル物價トノ關係ヲ説明セヨ
- ニ、イ、法定比價
- ロ、補助貨幣

昭和六年六月

金本位制度ノ得失ヲ論ゼヨ

昭和七年三月

- 一、現今ノ金本位制が國際的意義ヲ持ツト云ハルル所以ヲ論ゼヨ
- ニ、イ、跛行本位
- ロ、平價切下

昭和七年六月

金本位制ニ於ケル金輸出禁止ノ意義ヲ論ズ

昭和八年三月

- 一、金本位制ニ於ケル兌換停止ト金輸出禁止ノ有ツ重要性ヲ論ゼヨ
- 二、(イ) 貨幣ノ對外価値
- (ロ) 通用最輕量目

昭和八年六月

Fischerノ貨幣數量説ヲ論評セヨ

昭和九年三月

- 一、金本位停止國ニ於ケル金準備ノ意義ヲ論ゼヨ
- 二、(イ) 物品貨幣
- (ロ) リフレーション

昭和九年六月

- 一、金本位制ニ於ケル兌換ノ意義ヲ論ゼヨ

- (イ) 通用最輕量目
- (ロ) 拘束本位制
- (ハ) 貨幣ノ主觀的価値

昭和十年三月

- 一、金 (gold) ハ貨物制度ヨリ廢除セラルルモノナリマ否マヲ簡明ニ論ゼヨ
- 二、次ノ諸ヲ極メテ簡單ニ説明セヨ
 - (イ) 補助幣 (Compensated Dollar)
 - (ロ) 貨幣ノ客觀的交換価値

昭和十年六月

- 一、貨幣ト商品トヲ比較論評セヨ
- 二、次ノ諸ヲ簡單ニ説明セヨ
 - (イ) 商品幣 (Commodity Dollar)

(四) 本位 (Währung)

昭和十一年三月

- 一、平價切下ゲト貨幣価値トノ關係ヲ論ズ。
- 二、次ノ二問ニ答ヘヨ。
 - (イ) 貨幣ノ客観的交換價值
 - (ロ) 本位制 (Standard system, Währung)

貨幣論

荒木光太郎教授講述

第一篇 概説

第一章 序論

◎ 貨幣研究ノ態度

貨幣ヲ經濟機構全体ノ中ニ於テ、研究対象トシ、貨幣ヲ全体カラ分離抽象シテ一個ノ貨幣片 (Geldstück) トシテ研究スル態度ハ不可デアル。而シテ、此ノ事ハ二個ノ問題ヲ吾マニ提供スル。

第一ハ、貨幣ノ存在シ、流通スル經濟社会ヲ如何ニ認識シ理解スルカ。

第二ハ、貨幣ヲ綜合的ニ考察シ、即チ一定ノ組織又ハ貨幣制度ノ中ニ於テ觀

察シ、単ナル一個ノ貨幣にトシテ研究ノ対象トシナイト云フ問題デアル。
 (i) 先ヅ貨幣ノ存在スル社会ヲ如何ニ理解スルカト云フ事ハ種メテ重要ナル
 問題デアツテ、之ヲ解説ノ仕方如何ニヨツテハ、貨幣ノ本質及職能ノ決定ニ相
 違ヲ招来スルノデアル。

即チ現在ノ資本主義経済社会が如何ナル本質ヲ具有スルカト云フ問題ヲ理解
 スル事が所要デアル。Bendixen ハ『生産的方面カラ観レバ、今日吾人ハ自
 己ノ慾望(wants)ヲ考慮セズニ、他人ノ慾望ヲ目標トシテ考ヘ、其ノ結果、
 社会ノ總テノ人々が總テノ人々ノ為メニ労働(work)スル状態デアリ、之ニ対
 シテ消費的方面デハ總テノ人々が總ベテノ人々ノ活動乃至奉仕(service)ヲ
 要求シテ居ル』ト云フ状態ニ在ル。換言スレバ共同体ノ為メノ生産デアリ、共
 同体ヲ通ジテノ消費デアル。之が即チ、現在、貨幣経済(Mittelstand)ノ
 Geldwirtschaft)ト云ハレル資本主義经济社会ノ特色デアル。

上述ノ如ク Bendixen ハ貨幣ノ本質ヲ、生産及消費ニ於ケル共同经济ノ流
 念ノ上ニ把握セント試ミタノデアル。
 Karl Elster ハ『今日ノ经济組織ト過去ノ经济組織トヲ區別スル重要ナル

本質ハ、Knapp が正当ナル觀念ヲ把握シ、規定シテ居タノデアル。即チ、其
 レハ団体ト云フ觀念デアル』ト叙述シテ居ル。Elster モ亦 Bendixen ト同
 様ニ、団体即チ共同社会ナル觀念ノ下ニ、其ノ中ニ於ケル貨幣ノ本質(Messung)
 及職能(Funktion)ヲ建設セント試ミテ居ル。Elster ハ经济ノ形式及ビ经
 济彼階ニ於テ、全ク本質ヲ異ニスルニツノモノヲ指示シテ居ル。
 即チ、Elster ハ次ノ如キ歴史的關係ヲ認メテ居ルノデアル。

- (i) 自己经济(交換ナキ经济社会)、其ノ一ツハ家内经济デアル。
- (ii) 团体经济、其ノ一ツハ貨幣经济デアツテ、之ハ団体的生産ヲナシ、団
 体的支払ヲナシ、且ツ団体的消費ヲナス经济様式デアル。今一ツハ、社
 会主義的的共同经济デアツテ、団体意識が指導觀念トナツテ居ルノデアル。

◎ 団体ノ觀念ニ就イテ

経済的ノ範疇(Category)トシテノ団体ノ觀念ハ自己经济ノ時代ニハ尚未
 ダ発生シナカッタノデアル。而シテ國民经济ハ個人经济ノ總計トハ別異ナモノ

デアリ、団体生活ハ個人生活ト有様の関係ヲ有スルモノデアルト云フ事ヲ普通
シテハ到底団体ノ本質ヲ理解スル事ハ不可能ナリデアアル。

貨幣又ハ支払手段ナル觀念ヲ形成スル場合ニ、其レハ自己経済ノ時代ニ於テ
ハ考ヘル事ハ出来ナイノデアツテ、価格・支払・貨幣ト云フ如キ觀念ハ、自己
経済ノ時代ニハ存在セスシテ、後代ノ団体経済ニ於テ初メテ發生ヲ見タモノデ
アル、即チ、自己経済ハ無交換、且ツ無價格ノ経済デアアル。

今日ノ経済ノ特色ハ *Bendigung* ノ指稱シタ如ク、一方生産者トシテハ總
テノ人々が總テノ人々ノ為メニ労働 (*Worte*) スル所ノ団体的生産デアリ、他
方消費者トシテハ總テノ人々が總テノ人々ノ労働即チ奉仕ヲ要求シテ居ル所ノ
団体的消費デアアル。

而シテ、生産ト消費トヲ媒介スルモノが貨幣デアルト考へ、貨幣ノ本質ヲ以
テ *Elster* ハ社会的生産物ニ対スル参与能力 (*Beteiligungsmöglichkeit*)
デアリ、參與手段 (*Beteiligungsmittel*) デアリ、又、參與スル程度ヲ示
ス尺度、即チ參與尺度デアルト考へテ居ル。

即チ、貨幣ハ *Elster* ニ依レバ、其ノ本價上、社会的生産物ニ対スル參與可

能性ニ外ナラヌト考へラレテ居ル。

此ノ他ニ *Simmel*; *Tieghmann*; *Schumpeter*; *Wieser* 等ノ諸
學者ノ社会ニ対スル觀念ガアル。

③ 團 体 經 済

以上ニ挙示シタル諸學者ノ所説ヲ考察スルニ、団体経済デアルト云フ觀念ニ
関シテハ一致シテ居ルガ、其ノ内容中ニハ夫々不確ナル点ヲ発見スル。先ヅ、
現今ノ団体社会ノ基礎ヲナスモノハ、言フ迄モナク、個々人 (*individuals*)
デアアル、而シテ其ノ社会ニ於ケル基本的団体ハ家族デアアル。即チ、家族ヲ單位
トシテ、団体的生活ヲ営ンデ居ル。ソシテ家族内部ニ於テハ單一意志ニ依リテ
統一的ニ支配セラレ、家族経済ハ一ツノ個別経済又ハ特殊経済ト呼称サレル。
然シテ此ノ個別経済ハ種々ナル慾望ヲ有スル。之等ノ慾望ハ各個ノ個別經濟自
体ノ活動ニ依リヘ自給自足的ニ各自ニ充足サレルノが原則デアアル。又、慾望
ノ中ニハ多クノ個別經濟が共同的ニ満足サス方が一層完全ナル、ヨリ容易ナル
充足ヲナシ得ルモノが存在スル。斯カル慾望ヲ共同的慾望ト指称スル。(例セ

外部ニ対スル防禦ノ場合ノ如キデアル。以上ノ共同の慾望ヲ充足センガ為メニ組織サレタル団体ノ管ム経済が団体経済デアル。例言セバ、公経済、財政経済等ハ、國家・市町村等ノ自治体ノ管ム団体経済デアル。而シテ此等ノ団体経済が組織化サレレバ、夫々ノ団体ソレ自体ニ特殊ナル慾望ヲ生ズルニ至ル。之ヲ稱シテ団体慾望ト云フ。此ノ共同の慾望並ビニ団体慾望ヲ満足セシメンガ為メノ共同の經濟組織ヲ稱シテ共同經濟ト呼ブ。更ニ之等ノ家族ノ形成スル特殊經濟及ビ共同經濟ヲ包括スル組織ヲ綜合經濟ト稱呼スルノデアル。

◎ 交換ノ必要ト貨幣ノ發生。

現在ノ國民經濟ハ此ノ綜合經濟ニ屬スル所ノ一ツノ抽象的組織デ、何ラ統一の意思ニ依リ支配サレルモノデハナイ。然シテラ、國民經濟ヲ以テ單純ナル特殊經濟ノ數的綜合ダトモ考ヘ得ナイ。此ノ綜合經濟内ニ於テハ、其ノ内部ニ於テ分業組織が存在スルノデアツテ、之ハ各特殊經濟間ノ交換行為ヲ前提トスル。即チ各々ノ特殊經濟ハ交換ニ依リ經濟的ニ相互ニ強固ナル關係ヲ有ツモノ

デアル。

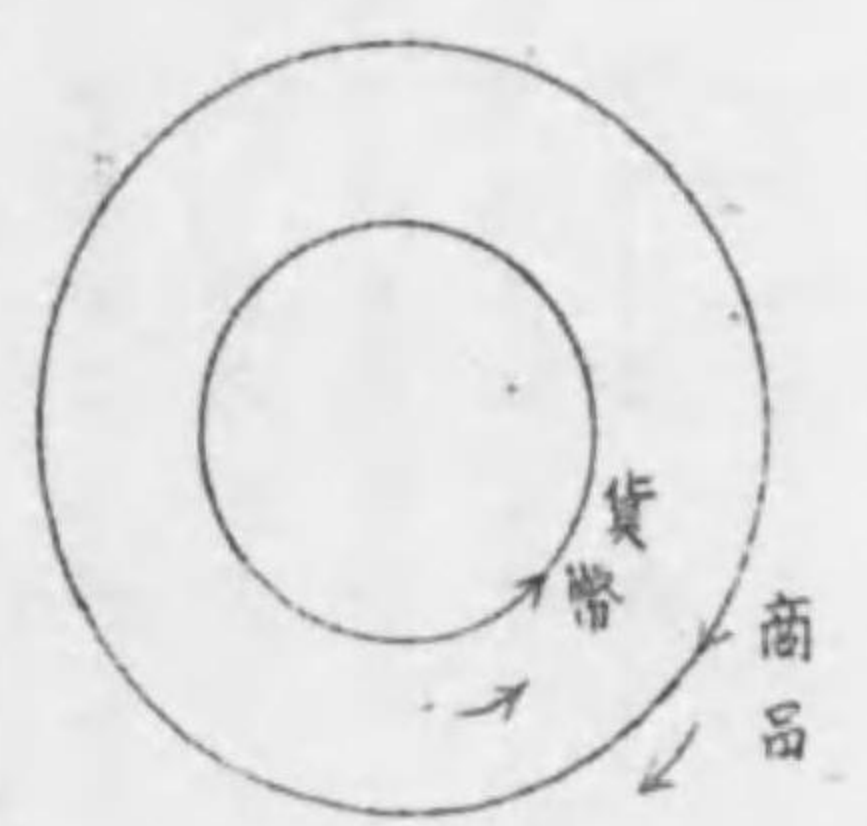
以上ヲ要約スレバ、社会ノ構成員タル各個人ノ相互ノ關係が極メテ密接ナル有機的ナル結合デアルコトハ況ク容易サレル所デアル。結局今日ノ社会ニ於テハ、其ノ社会構成員タル各個人ノ關係ハ交換(exchange)ニ依リ結合サレ、交換手段(measures of exchange)ハ貨幣ヲ以テ為サルガ故ニ、畢竟、貨幣ニ依リ社会ノ各人が結合サレテ居ルト言ヒ得ル。即チ、現在ノ個人ハ社会的存在タル個人デアル。茲ニ貨幣ハ同一ノ經濟組織内部ニ於テハ、其ノ境界迄浸透スルガ故ニ、貨幣ヲ以テ、其ノ經濟範圍ヲ比較シ、同時ニ其ノ經濟範圍内ニ在ル個人ヲ綜合スル。更ニ此ノ交換形式ヲ見ルニ、現在ノ社会ハ物々交換(kautan)ニ非ズシテ、貨幣ヲ媒介(mittel)トスル。例ヘバ現在ニ於テ、吾々が一ツノ駄賃ヲ獲得セントスルニ當リ、直接ニ駄賃ヲ以テ交換セスニ、貨幣ヲ媒介トスル。

(註) 即チ次ノ如ク図示シ得ル。



W = 財貨
G = 貨幣

W₁ と W₂ ナル商品間ニ介在シテ、Gナル貨幣が交換ノ媒介ヲナス。



経済社会内ニ於テ商品ト貨幣ハ、個人カラ個人ヘト移リ流レルガ、ソノ方向ハ逆デアアル。

即チ、斯カル意味ニ於テ、現在ノ経済様式ハ Bruno Hildebrand ノ貨幣経済 (Geldwirtschaft) ノ時代ヲ形成シテ居ル。

即チ、現在ノ如キ貨幣経済ノ時代ニ於テハ、總テノ交換ハ貨幣ノ媒介ニ依ルト同時ニ、總テノ商品 (waren) ノ價值ハ貨幣ヲ以テ表示セラル。即チ貨幣價格 (Geldpreis) ナリトナル。此ノ点ハ物々交換 (barter) ト異ル。貨幣経済ノ一ツノ特色ト云ハネバ、貨幣ハ恰モ人体内部ヲ循環スル血液 (blood) ナリトテ人体構造ニ譬喩スレバ、貨幣ハ恰モ人体内部ヲ循環スル血液 (blood) ニ相当スル。従ツテ、此ノ経済活動ヲ知ラントセバ、其ノ機構内部ニ於テ如何ニ貨幣が動キツ、アルカ、又、貨幣ノ本質ハ何デアアルカヲ理解セネバナラス。即チ、第一ニ貨幣ノ國民経済内ニ於ケル重要性ヲ認識シナケレバナライノデアアル。

第二ノ問題ハ貨幣ノ総合的ニ觀察デアアル。貨幣ハ日常吾人ノ目撃スル如ク一個ノ具体的ナ存在 (Concrete existence) トシテ、認識サレル。貨幣現象ハ此ノ具体的ナル貨幣ト分離セシメテハ考察シ得ナイノデアツテ、貨幣理論ノ研究ハ、其ノ中核ハ貨幣ソレ自体ヲ研究スルノデアアルガ、即チ其ノ取扱フモノ

ハ具象的ナルモノトシテ、又、ソノ目的ハ一國民經濟内ニ於ケル貨幣ノ本質 (Wissen) 職能 (Funktion) 価値 (Wert) ヲ其ノ研究対象トスルノデアル。

既述ノ如ク、貨幣ヲ貨幣現象ト云フ観点カラ之ヲ研究対象トスル、吾人ハ貨幣現象トシテ一個ノ貨幣片 (Geldstücke) ヲ研究対象トセズシテ、流通場裡ニ於ケル貨幣ヲ取扱フ。

現在ノ貨幣ハ決シテ、一個ノ独立セル存在ヲ有スルモノニ非ズシテ、一ツノ貨幣制度ト云フ組織ヲ形成シ、其ノ内部ニ於テ、其ノ組織中ノ一個ノ貨幣トシテ発行セラレ、流通 (circulate) スル。故ニ流通スル貨幣ハ個々ノ独立ヲ有セズシテ、統合サレタ組織、即チ貨幣制度内ニ於ケル一分子トシテノミ存在スル。従ツテ貨幣ヲ以テ制度・組織カラ分離セシメテ、一個独立ナル貨幣片ト觀ル場合ニハ、例言スレバ貨幣ヲ骨董品トシテ取扱フが如キ、或ハ貨幣ノ歴史的存在ヲ研究対象トスル所ノ古錢学 (Numismatie) ト貨幣論トハ明確ニ峻別セネバナライノデアル。

第二章 貨幣ニ関スル理論的研究ノ歴史 貨幣ニ對スル理論的研究

貨幣理論ニ関スル歴史ハ極メテ古ク、國民經濟学 (Volkswirtschaftslehre; political economy) ナルモノガ科学 (Wissenschaft; science) トシテ大成スル以前ニ、貨幣ガ理論的研究ノ対象トナツクノデアル。此ノ理由ニ就テハ種々指摘シ得ルガ、其ノ主要ナルモノハ、貨幣ハ常ニ一ツノ具體的ナ形ヲ有シ、例ヘバ、金貨トカ銀貨ノ如ク鑄造貨幣 (Coin) ノ形ヲトツテ吾々ノ眼ニ触レテキタコトデアル。而モ貨幣ノ有スル特殊の性質及ビ機能ヲ吾々ノ眼目ニ示スノデ、他ノ抽象的ナル現象ヨリモ一層早ク吾々ノ注目ヲ惹クニ至ツクノデアル。例ヘバ Mercantilism ノ考ヘ方ガソレデアル。然シ其ノ直接的ナ研究ノ動因ハ現實ノ問題デアル。即チ日常生活ノ實際の必要ヨリ發生シタノデアル。

Wolfgang Jeller ハ其ノ著“國民經濟ノ基礎問題”ニ於テ説明シテ曰

ク「極ク其ノ初期ニ於テハ貨幣ノ改悪 (Geldverschlechterung; debasement) ノ向題ガ人々ヲシテ貨幣ニ就イテ考ヘサセル様ニ強制シタ。而シテ其ノ後十五世紀一四九二年、米大陸発見後ニ於テハ改削ニハ異常ノ物價革命 (Preisrevolution) 即チ大陸ヨリ金ノ流入夥多トナリ、物価大変動ノタメニ、人々ノ興味ハ再び貨幣ノ上ニ注ガレルニ至ツタ。次イデ一層広汎ナル範圍ニ於テ國民經濟ガ形成サルルニ至ルヤ、貨幣ニヨル交易ハ果シテ國民ノ富ニ重大ナル関係ヲ有ツマト云フ概ナ向題モ出ルニ至ツタ。ソノ後交易ノ発達ト共ニ貨幣制度ノ統制向題ニ関聯シテ、多クノ貨幣ニ関スル議論ガナサレタ。之ニ次イデ貨幣ニヨル交易ノ発達ニ対シ、二種ノ金屬ヲ用フル事ノ困難ナルコト、即チ、兩本位制ノ問題ニツイテ、更ニ銀ノ価値下落及ビ紙幣ノ流通後、其ノ無秩序ナル紙幣發給ニヨル貨幣価値ノ下落ノ現象ハ、相共ニ現實問題トシテ、人々ヲシテ貨幣ノ向題ニ関シテ考ヘサセタ。

I. 初期ノ貨幣理論

今、古イ時代ノ貨幣理論ヲ考察スルニ、Plato, Aristoteles,

Kenophon 等ハ夫々ノ著書ニ於テ、貨幣ニ関スル重要ナル見解ヲ示シ、殊ニ前二者ニ於テ顯著ナルヲ見ル。例ヘバ、Plato ハ其ノ著書ノ中デ、貨幣ヲ以テ、交換ノ為メノ象徴 (Symbol) デアルトナシ、更ニ貨幣ハ賤貨ノ不平等ト不可測定性ヲ改メテ平等ト測定可能ニ導クモノデアルト叙述シテ居ル。即チ彼ハ貨幣ヲ以テ交換ノ媒介物デアリ、且ツ価値ノ尺度タルコトヲ認メタト云ハル。

又、Aristoteles ハ、貨幣ヲ以テ価値ヲ等シクスルモノトシテ必要デアルト云ヒ、即チ此ノ点ニ於テハ Plato ト同様デアルガ、其以外ニ、貨幣ノ職能トシテ、価値貯蔵ノ手段デアルコトヲ認メテ居ル。(store of value) 又、ソノ他、貨幣ハ將來ノ交換ニ対シ彼立ツモノデ、例ヘバ現在、物ヲ必要トシナイ場合ニハ、ソノ必要ノ時ニ取得スルコトが出来ルト云フコトニ対スル一種ノ保証デアルト述ベテ居ル。

又、*Kenophon* ハ金ト銀トノ価値ニ就イテ述ベ、「若シ之等ノ金屬ノ數量ガ増加スレバ、価値ハ下落スルモノダ」ト述ベテキル。之ハ明カニ貨幣トシテ金屬ヲ使用シタ場合ヲ考想シテナルト云ヘル。

(註) 彼ハ云フ。「金ハ多量ニ出現スル場合ニハ、其ノ価値ハ下落シ、相對的ニ銀ノ価値ハ上騰スル。然シ金ニツイテハ同様ノ結果ヲ生ジナイ。其ノ理由ハ金ハ何人トモ、ヨリ以上ニ好マナイホドニ、ソノ所有ヲ為シ得ル事ハ出来ヌ。此ノ事ハ次ノ事ヲ意味スル。即チ *Xenophon* ハ金ハ銀貨幣デ云フナラバ、常ニ価値ノ変化ヲ示サナイコトヲ意味スル。從ツテ *Xenophon* ハ、コノ金屬ノ貨幣金屬ニ對シテ価値が不変デアルト云フ事カラ、銀ノ価値ノ一定セル事ヲ假定スル事ハ正シイ事デアラト敘述シテ居ル。

ローマ人ハ、ギリシヤ人ニ比較スレバ、貨幣問題ニ對スル貢獻ハ少イ。貨幣ニ對スル研究ノ場合ニハ、貨幣ノ歴史的・考古學的方面ニソノ研究ノ方向が向イテキタノデアアル。更ニ中世ノ初期、ローマ帝國ノ滅亡後約七〇〇年間ハ歐洲ニ於テハ知的發達ノ沈滞時代デ、ゲルマン族ノ侵入、僧侶ノ神學研究没頭ハ、貨幣ノ如キ經濟現象ノ自由ヲ研究ニ時ヲ與ヘナカッタ。勿論、智的研究が皆無デアツタノデハナイ。中ニハ從來ノ研究ヲ集大成シタモノモアル。然シ此ノ時

代ノ經濟現象ノ研究ニ從事シテ、ソノ思想ノ進歩ニ貢獻シタ者ハ殆ンドナイ。

十字軍以後

然シ下ラ第十二世紀ニナルト、歐洲ニハ種々ナル大変化が起ツタ。第一ニ學グベキハ、十字軍ヲ興發トスル所ノ、アラビヤ、ユダヤ、ビザンチン、ノ哲學トノ接觸デ、之ハ知的發達ノ上ニ大ナル貢獻ヲ齎ラシタ。即チ新局面が展開サレテ大ナル活況ヲ呈スルニ至ツタ。再ビ *Aristoteles* 等ノ著書が中改ノ學者ニ依リテ讀マレルニ至ツタ。而シテ、此ノ傾向ハ第十三世紀ニ至リ、最高潮ニ到達シヘスコラ哲學ノ黄金時代。此ノ傾向ハ尚二百年ハ持續シ、貨幣問題ハ此ノ間ニ理論的進歩ヲナシタ。此ノ出发点ハ *Aristoteles* ノ研究ダが、コノ研究ヲ基礎トシ、其ノ上ニ更ニ重要ナル新シイ幾多ノ問題が論議サルルニ至ツタ。此ノ時代ノ注目スベキコトハ、貨幣ノ改悪問題 (*Geldverschlechterung*) デアツテ、嘗テ希臘時代ニハ省ミラレナカッタノデアアル。即チ、當時ニ於テハ諸侯ハ改鑄ニヨリ利スルト共ニ、一方人民ハ之ニ依ル貨幣価値ノ下落ニ苦惱シ、又、貨幣經濟ノ發達ハ価値ノ安定セル貨幣ヲ要求スル事が一層切實トナツタ

メデアル。

而シテ此ノ貨幣ニ関スル研究ノ代表者ハ St. Thomas Aquinas デ。彼ハ Aristoteles ノ学説ヲ正シク紹介シ、且、解説シ発達セシメタノデアル。例ハ彼ハ Aristoteles ノ如ク貨幣ハ交換ノ為メニ案出サレタモノデアルが故ニ、貨幣ノ第一ノ且ツ、主要ナル用途ハ之ヲ費消スルコトデアルト云ヒ、又貨幣ノ必要ハ之ヲ貯藏スル為メデナク、常ニ轉輸流通シテ支払手段トナリ、又貨幣ノ貨幣タリ得ルハ常ニ所有者が移転スル事デアル。ソレ故、之レハ酒ト同ジク消費スルモノデアル。貨幣ヲ支払フノハ、酒ヲ飲ミ、穀物ヲ食ベルト同様、貨幣ニトツテハ支払ハ消費デアル。之ハ個人的ヲ考ヘ方デアル。彼ハ即チ貨幣ノ本質ヲ以テ流通ニアルトシ、貨幣ヲ以テ他ノ商品ト區別シタコトハ之ヲ認めネバナラナイノデアル。

John Buridan

更ニ傳統的ナル貨幣理論ノ發展ニ貢献シタノハ、John Buridan デアル。彼ハ中世ニ於ケル貨幣問題ノ鋭イ批評家デアツタ。ソコデ彼ハ独自ノ見解ヲ示

シテキル。貨幣ノ必要ナル所以ハ、従来説述サレタ以外ニ更ニ「人々ノ所有スル餘剰ノ処分ト、ソレニ依リテ、取得セラルル物ノ消費トノ間ニ存スル時間的ナル隔リヲ連絡ツケ、又、貴重ナル物ノ有スル自然的性質トシテノ非分割性ハ貨幣ニ依ツテ除去サレルレト。

又、Buridan ハ、貨幣ノ価値ハ人間ノ必要ニ應ジテ測定サレル。何トナレバ、假令吾々ハ必要品トシテハ、金又ハ銀ヲ要求シナイケレドモ、然シ^{カネ}金ヲ有スルモノガ、金又ハ銀ヲ贅澤品トシテ要求スル。故ニ吾々ハ次ノコトヲ知ルノデアル。金ト銀ハ全体トシテハ貨幣ト同様ニ、又ハ大体ソレニ近イ価値ヲ有スルノデアル。

Buridan ノ此ノ考ヘ方ハ、一種ノ金属学派即チ *metalistic* ナ考ヘ方デアルトハ、嚴密ナ意義ニ於テハ言ヘヌガ、准金属論ナ、即チ商品学説デアル。従ツテ、従来ノ貨幣及ビ貨幣価値ニ関スル学説ハ可成リ人為的ナモノデアルト云フ考ヘ方ニ対シテ、彼ハ人々ニ疑惑ヲ抱カセ、従来ノ考ヘ方ハ大イニ動搖シタノデアル。即チ彼ハ貨幣理論ヲシテ、貨幣ノ商品性ヲ認メシメ、ソノ本質ヲ交換場裡ニ於テ見ントスルノデアル。

(註) *Kataraktik Theorie* 交換學說

oktaraktik Theorie 非交換學說

Buridan ハ、貨幣ヲ以テ決シテ人為的ナモノト考ヘズ、經濟發達ニ伴フ自然發生的ナ產物ト考ヘル。貨幣ヲ以テ一般の價值法則ニ從ヒ、國家ハ貨幣ニ對シテハ、何等ノ支配ヲ為シ得ヌノデアルト考ヘル。

貨幣價值理論ニ對シテハ、*Buridan*、考ヘ方ハ特色アルモノダガ、其ノ發展ハ後人ニ依リ為サレナカッタ。其ノ後モ商品ノ價格が動搖シタ様ナ實際問題ニ就テハ、之が屢々惹ツタタメニ、人々ノ注意が貨幣問題ニ向ケラレタコトハアル。例ヘバ、アル學者ハ物價騰貴、貨幣價值ノ下落トノ關係ヲ論ジタ。

Nichole Oresme

第十四世紀ノ人々ノ見解ハ *N. Oresme* = 依リテ纏メラレテキルト云ヘル。コノ人ノ見解ハ *schola* 派ノ理論ノ説明トシテハ重要ナルモ、只一般理論トシテハ、ソノ獨創性ニ於テ特別ニ言フベキモノハナイト云ハレル。一般ノ貨幣

制度ハ第十四世紀ノ初ノヨリ紊乱シ、ソレニ伴フ價格變動ニヨリ、一部ノ階級ハ其ノ影響ヲ受ケテ、支払ノ延期ノ際ニ於ケル貨幣價值ノ問題ハ當時 *Molinarius* = ヨリ研究サレタ。

例ヘバ、總テノ貨幣が比例的ニ増加サレルナラバ、ソレニ應ジテ、物價ハ騰貴スルモノデアル。又貨幣ノ量目が減ゼラレルト、貨幣金屬ノ價值が高マル。又、ソノ外、債権者が貨幣ノ改悪ヤレタ場合ニ、餘計ナ貨幣ヲ受領シクトスレバ、ソレハ非常ナコトデアル。ソレ故ニ *Molinarius* ニトツテハ、貨幣ノ單位ハ如何ナル事が起ツテモ、ソレハ依然トシテ、不変ナル貨幣單位トシテ考ヘネバナラス。從ツテ權力者・王侯・貴族ハ鑄造貨幣ノ量目ヲ決定スルコトが出来金屬ノ價格ヲ決定スルコトが可能デアルが、ソノ價值ヲ如何トモスル事が出来ヌ。即チ價值ノ変化ハ權力者ノ力以外ノモノデアルト云フ方ヲシテキル。又、貨幣鑄造ノ手数料等ノ問題ニ関シテハ、鑄造手数料ハ、ソノ費用以上ニ上ツテハナラストカ、或ヒハ補助貨幣ノ研究、貨幣改悪ニ伴フ良貨ノ國外流出等ノ現象ニ一報カ注意スルニ至ツタ。

十六世紀以後

第十六世紀に至リ、勿論前時代ノ思想ハ存在スルガ、歐洲ニ於テハ、智的、經濟的並ビニ政治的諸方面ニ於テ大變化が起ソク。

従来ノ思想ハ文藝復興 Renaissance ニ依リテ再生サレ、興味ト活動ニヨリ直ニナル影響ヲ受ケタ。倫理、政治ハ従来ノ如キ信託、貴族ノキヨリ一般ニ科擧ノ方面ニ注目サレ、商業上ノ利益が重視サルルニ至ソク。コノ傾向ハ貨幣理論ニモ見ラレルガ、従来ノ貨幣理論ハ多クノ修正ヲ受ケタ。例ヘバ、従来ノ理論ハ問題ハ可成り取扱フモ、極メテ断片的デアアル缺點ヲ有キ、ソノ取扱ヒ方が倫理的ニ觀察ト結び付イテテチタノデアアル。所ガ、此ノ時代以後ハ主トシテ、政策的・技術的方面ニ注目サレテ發展シ、所謂抽象的科学的取扱ヲ受ケタ。此ノ新ラシイ見方ニヨリ、今迄承認セラレテキタ學說・理論が再検討サレタ。例ヘバ、Copernicus ハ當時ノ露西亞・波蘭ノ鎔冶が無秩序デアツク際ニ、波蘭王ハコノ人ニ相談シ、彼ノ建議ヲ容レタ。

十六世紀中期

十六世紀ノ中頃ニ至リ、米大陸ヨリノ貴金屬が新ラシク供給サレタタメニ、ソノ影響ハ直チニ各所ニ現レタ。即チ、一般的物價騰貴ノ現象ガソレデアリ、コノ現象ニ対スル説明ハ多ク出タ。ソノ一ツハ貨幣ノ改悪ガソノ原因デアルト云フ者アリ。然シコノ原因ノ誤謬デアルトハ人々ノ知ル所トナリ、結局、金及ビ銀ノ豊富ニナソク事ガ貨幣価値ヲ下落セシメタタメデアルト云フ人が出タ。此ノ考ヘ方ハ多クノ人々ニヨリ為サレタガ、殊ニ明確ニ之ヲ主張シタ人ハ、フランスノ Jean Bodin デアル。

J. Bodin ハ其ノ著書ニ於テ、此ノ点ヲ明カニシ、コノ物價騰貴ヲ以テ、金銀ノ増加ニ原因ヲ求メ、ソノ他デモ彼獨特ノ見解ヲ示シタガ、矢張り彼ノ考ヘ方ハ金屬學說的ナモノデアアル。物價騰貴ヲ以テ、單ニ貨幣ノ改悪ニ帰因セシムルコトノ誤リヲ述べ、五ツノ原因ヲ挙示シテ居ル。

- 1. 金・銀ノ豊富
- 2. 独占

- 3. 商品ノ数量が相対的ニ少イ。
- 4. 國王並ビニ貴族ノ安逸奢侈。
- 5. 貨幣ノ改悪。

殊ニ、第一ノ原因が主要ナル原因ト考ヘタ。

貴金屬ハ他ノ商品ト同様ニ法則ニ従フモノデアリ、多量ニ存在スル時ハ価値ハ低落シ、少量ナレバ高騰スルコトヲ強調スル。貨幣価値ハ其ノ構成スル金屬即チ貨幣素材金屬ノ価値ニ外ナラスト考ヘタカラ、金屬ノ数量如何が結局、貨幣価値ヲ左右スルト考ヘタ。従ツテ、此ノ意味カラ *Bosnia* ハ金屬ノ数量が貨幣価値ノ上ニ影響ヲ有ツコトヲ認メタ点デハ貨幣数量説論者デアルトモ考ヘ得ルガ、然シ之レダケノ事實ヲ以テハ、今日ノ意義ニ於テノ貨幣数量説論者トハ云ヘヌガ、既ニ萌芽が彼ノ中ニ存シタノデアアル。

若シ、實際ニ貨幣数量説論者ナレバ、伊太利ノ商人デアル *Ravanzati* ヲ以テ第一ニ挙げベキデ、コノ人ハソノ著書ニ於テ貨幣ノ供給ト、ソノ價值トノ間ニ就イテ次ノ如ク叙述シテハ、

「人間ノ慾望ヲ満足セシメル總テノ物ハ、國民ノ承諾ニ依リテ、總テノ採掘

サレタ總テノ貴金屬ト同価値デアアル。故ニ總テノ人ハ、總テノ金屬ヲ以テ、彼ノ慾望ヲ満足シ、幸福ナラシメンガ為メニ、總テノ商品ヲ購フ。

故ニ人間ノ幸福が外界ノ事物ニ依存スレバ依存スルダケ、總テノ金並ビニ労働ハ、ソレ丈ケ価値ヲ有ツコトトナル。此ノ叙述ノ最初ノ部分ハ貴金屬ノ價值ト財貨ノ價值トノ間ニ等価ノ關係が存在スル事ヲ主張シ、後半ハ不明瞭ダガ、現在ノ貨幣数量説ノ最初ノ表現ヲ有スルモノト言ヒ得ル。

第十六世紀ハ、一般的ニ云フナラバ、コノ時代ノ貨幣理論ノ特色ハ、主トシテ技術的見地ニタツ理論ノ研究ニ一般ノ注意が向ケラレタコトデアアル。即チ貨幣ノ改悪問題 (*Geldverschlechterung*; *debasement*) カラ、貨幣ノ形状・品位・内容等ニ関シ、詳細ニ論議サレタノデアアル。

十七世紀以後

十七世紀ニナリ、重商主義 (*mercantilism*) ノ勃興ト共ニ、経済生活ニ関スル諸問題ニ対スル實際的研究が盛ントナリ、殊ニ貨幣ヲ以テ一國ノ富ノ主要ナルモノデアルトノ考ヘ方ハ、貨幣理論ノ研究ヲ一層発達セシメタ。

此ノ時代ノ初期ノ實際的研究者トシテハ、伊太利ニ於テハ、當時伊太利が悩
ンデ斗々通貨ノ混乱ヨリ生マル種モノ弊害ニツイテ、論ジタモノトシテハ、
Antonio Serra ガアル。又、英國デハ当時、世界ノ通商上ニ於テ活躍シヨ
ウ考ヘナ有シ、商業ニ関スル問題が種々論議サレタ。即チ、一方、貴金屬ノ輸
出ヲ制限セントスル主張者即チ地金論者 (Bullionist) ト他方、貿易均衡論
者トノ論争デアル。

例ヘバ、Thomas Mun ハ此ノ Bullionist ノ主張ニ反対シ、ソノ答辯
書タル著書ヲ出シテ居ル。

而シ、其ノ外ノ有名ナ学者ハ Rice Vaughan デアル。一六七〇年頃ニ
Riascourses of Coinidence ナル著書ニ於テ述ベタ思想ハ大体ニ於
テ Bodin ト同様デ、物價ノ騰貴ヲ以テ、金銀ノ豊富トソレニ基ヅク貨幣價値
ノ下落ニ求メタ。ソノ他ノ原因、即チ、物ノ欠乏、商品ノ少量、戦争、人口減
少、需要減退等ハ一般的原因ト考ヘタノデアル。
獨逸ニ於テハ、當時經濟問題が一般ノ興味ヲ惹キ Kameralist (國家財

政マ策ヲ論ズル人) ニヨリ論議サレタガ、然シ革命的 (Creative) ナ特色ア
ルモノハ欠ケテナクガ、従来ノ學說がコノ中ニ色々トリ入レラレテ考ヘラレタ。
オーストリーデハ Johann Becker がナタ。

十七世紀末期

十七世紀ノ末葉ニナツテ、更ニ多クノ貨幣理論ハ發展シタ。例ヘバ、伊太利
デハ Montanari ナ著ゲルコトが出来ル。コノ人ハ伊太利ノ、ボロニヤ大学
ノ数学及ビ天文学教授デアツタガ、後ニ Padua ノ大学ニ移ツタ。コノ著書デ
ハ Comingsi ノ数量學說的ナ考ヘ方ヲ明カニシタ。即チ、總テノ商品、即チ
商業上ノ財貨ハ之ヲ全体的ニ見レバ、金貨・銀貨・銅貨ノ様ナ鑄造貨幣ノ形状
ヲナシ、流通シテ居ル貨幣ト同様ナル價値ヲ有スルト述ベテ居ル。

又、英國デハ William Petty ナ著ゲル書が出来ル。十七世紀末ハ英國ニ
於テハ、通貨ノ状態ハ極メテ悪ク、當時ノ人々ハ之ニ就イテ種々ト心ヲ悩マシ
テナタ。殊ニ銀貨ハソノ貨幣價値が下落シ、當時ノ通貨ノ中デハ、ギニー
(guinea) ハ流通場裡ノ唯一ノ良貨デ、ソノ結果、ギニーノ價値ハ騰貴シ、

一時ハ30 shillings 迄高騰シタ。(現在デハ21 shillings デアル)之ニ因シテ、本位貨幣 (standard coin) ノ價值ニ就イテ、論争ガナサレツ、アッタ。

殊ニ John Locke が此ノ問題ヲ論ジタ。

十八世紀

十八世紀ハ從來ノ貨幣ニ関スル理論ノ批判及ビ改良ノ時代デアル。當時ハ、重商主義的ナ考ノ方 (Mercantilism) が行ハレ、貨幣問題ニ関スル積極的ナ興味ハ存シタ。従ツテ、從來ノ発達シタ貨幣理論ニ就テハ、多クノ人々ニ依リ、再検討及ビ発展ガ為サレタ。此ノ時代ニ於テ論ゼラレタ所ノ主要ナルモノハ、Bankingニ関スル理論デアル。又、貨幣ノ方面デハ、貨幣ヲ以テ、國富ノ主要ナル要素ナリトシ、政府ガ通貨ニ干渉スルコトヲ否定シ、通貨ニ関スル統制問題ニ就イテ、論議セラレタノデアル。例ヘバ、貨幣ニ関スル一般のナ理論問題トシテハ、貨幣価値並ビニ其ノ金屬ノ生産ニ関スル問題ガ殊ニ取上ゲラレテ、貨幣理論ニ對シテ貢獻シタコトガ頗ル多クツタノデアル。英・佛・伊

ニ於テ之等ノ研究ガ多イノヲ見ル。

一般ニ言フナラバ、十八世紀ノ貨幣ニ関スル理論ハ既ニ発達シタ理論ノ上ニ更ニ建設セントスル努力ヲ示スモノデ、ソレハ前時代ノ貨幣理論ノ再検討ニ依ツテ基礎付ケラレテ起リ、ソノモノ自体ノ不十分ナル種メテ理論ノ淺薄デアルト云フ事ノ批判ノ上ニ立チ、從來ノ傳統的ナ考ヘ方ガ修正サレ、ソノ上ニ発達シタノデアル。

十八世紀ノ初期ニ於テ、種々ナル特色アル論争ガナサレタノデアル。例ヘバ Boisguillebert デアル。コノ人ハ重農主義者 (Physiocrats) ノ先驅ト称セラレ、佛蘭西ノ泥濘セル経済状態ニ就イテ論ジタ。

ソノ他、拳ゲバキモノハ、例ノ John Law デアル。彼ハ紙幣発行ニヨリ通貨膨脹 (inflation) ヲ招来シタ失敗ヲナシタガ、貨幣問題ニ関スル理論ハ独自のデ、且ツ誇張的ニ過ギタ点ガアル。貨幣問題ニ関スル Money and Trade considered? 〃ニ於ケル分析的研究ハ鋭イ。

前二者ニ比シ異色アルハ、Sir Isaac Newton デアル。コノ人ハ造幣局長デアッタ当時ノ研究ガアル。

ソノ世有名十人ハ Richard Cantillon デ。一七三三年頃ニ書イタ研究ガアル。コノ人ハ Adam Smith ノ富国論以前ニ於ケル最モ優レク英國ノ経済学者ト云ハレ、後ノ経済理論ニ対シ、種々ナル影響ヲ齎シタ。貨幣及銀行ニ関スルモノ、貨幣理論ニ対スル分析、研究、価値・物価ニ関スル研究ハ極メテ明哲デ、ソノ点ニ於テ重要視スベキデアル。

ソノ外ニハ Montesquieu デアルガ、コノ人ノ論文モソノ一部ニ於テ貨幣問題ヲ取扱ツテキル。社会ノ発達ニ対スル影響ヲ觀察シタ人デハ傾聽スベキモノアリ。ソノ理論ハ公正デアリ、且ツ機械的ナ整然タル事ニ於テ一ツノ特色ヲ有ツ。

十八世紀中頃

十八世紀ノ中頃ニ、英國ニ於テハ、貨幣理論ノ発展ヲ見タノデアルガ、ソノ一ツハ David Hume デアル。Hume ハソノ著書 "Political Discourses" ニ於テ、貨幣ニ就イテ論ジ、殊ニ Montesquieu ノ恣意的ナ貨幣理論ニ批判ヲ加ヘテキル。

ソノ外ニハ Joseph Davis ガアル。Klein's ハ貨幣ニ関スル著書以外ノ研究モアルガ、ソノ貨幣理論ノ内容ハ殊ニ、貨幣価値ノ問題ニ於テ秀レテキル。ソノ他ノ点デハ、貨幣ノ改悪問題 (debasement) ト其ノ歴史ニ就イテ多ク敘述シテキル。

獨逸ニ於テハ、十八世紀ノ中頃ニ、重要ナルハ Johann von Justi デアルガ、コノ人ハ十八世紀ノ中頃以後、政治・商業資本・金融等ニ関スル書ヲ出シテ居ル。ソノ学説ハ従来ノ最モ優レテキルト思ハレルモノヲ綜合シタト云ハレ、理論ニ関スル分析的方面ハ極メテ優レテオル。

以上ノ人々ハ重商主義学派ニ対シテハ鋭イ批判者トナツタガ、重農主義学派ノ人々ハ異ル立場ニアルガ、貨幣問題ニ関シテハ、重商主義学派ノ人々ハド固心ヲ有タナカッタノデアル。例ヘバ、Surgut ハ貨幣問題ニツイテモ、根本的ナル問題ヲ扱ツテキナイ。

コノ當時ニ於テ、従来ノ傳統的ナ学説ヲ辯護スル人モアル。例ヘバ James Stuart デアルガ、コノ人モ貨幣ニ関シテ考察ヲシタ。

十八世紀末期

十八世紀末葉、伊太利ニハ種々ナル人々が輩出シタ。例へバ *Carli* デコノ人ハ主トシテ歴史の方面ハ勿論、分析的方面デモ優レテキタ。ソノ外 *Genovesi* 等ノ人々ヲ舉示シ得ル。

繼ッテ *Plato*、*Aristoteles* が貨幣ヲ以テ、人間ノ合意ダトカ、法律ノ規制ヨリ成立シタト云フ如キ古キ時代ノ思想ハ姑ク措クト、貴金屬が貨幣鑄造ノ素材トシテ重要デアッタ關係上、貨幣經濟ノ發展ニ從ヒ、貨幣ノ交換手段タル役割が主要ナルニ從ヒ、貨幣ヲ重要視シ、貨幣素材即チ金屬ヲ尊重スルト云フ結果、金ト貨幣トノ區別ヲ時ニ忘レテ、兩者ヲ同一視スル様ニナッタコトハ、又、己ムテ得ナイコトデアル。

實際、第十九世紀ノ貨幣理論ヲ見ルニ、主トシテ金屬學派 (*metalistic* ナル、即チ素材價值ニヨリ貨幣價值ヲ説明セントスル) 的考へ方が大部分デアル。而シテ、名目論 (*Nominalism*) ノ發生シタノハ後ノ事デアル。

第二節

Adam Smith 以後ノ

貨幣理論

Adam Smith ハ其ノ著、富國論 (*Wealth of Nations*) ニ於テ鑄造貨幣 (*coin*) ヲ以テ、刻印 (*stamp*) ヲナセル金屬片デアルトナシ、貨幣ト金屬トノ差ヲ殆ンド無視シテキル、即チ貨幣ヲ構成スル所ノ、換言スレバ、素材タル金屬ノ價值、即チ金銀ノ或ル特定量が購買若クハ支配シ得ル労働量、又ハ其ノ交換ニヨツテ得ラレル他ノ財貨ノ量ハ、偶々、ソノ時ニ於テ知ラレタル鉱山ノ内容ノ豊富ナリマ微弱ナリマニ依存スルト云ハレテキル。

又、*Ricardo* モ、貨幣ト金屬トノ間ニ區別ヲ設ケズニ、金銀ノ價值即チ貨幣ノ價值デアルト考ヘタ。金銀ハ他ノスベテノ商品ト同様ニ、ソレヲ生産シ採掘シ、且ツ市場ニ出スニ必要ナル労働ノ量ニ應ジテ、價值がアルト生産費說ヲ述ベテアル。之ハ明カニ、金屬學說 (*metalism*) 又ハ素材學說デアル。コノ考へ方ハ、更ニ *John Stuart Mill* ニヨリ受継ガレ、当時ノ英國ノ學

派ハ之ニヨリ支配サレタ。ソレ以後 *Senior's* ヲハジメ *Marshall* 等、近代ニ至ル迄、多クノ代表者が英國ニ輩出シタノデアル。

然シ、コノ金屬學說ハ英國ノミナラズ、歐洲大陸ニモ同様ノ傾向ノモノヲ見出スノデアル。

例ハ *Roosker*, *Kries* ヲ挙ゲ得ル。

又、*Kries* ハ經濟敗貨ノ価値ハ、貨幣ニヨツテ、即チ貨幣ノ個片 (*Stück*) ニヨリテ、測定サレルノミデナク、貨幣ノ価値ニヨリ即チ量目ニ關シテ一定シテ居ル貨幣個片ノ価値量ニヨリテ測定サレルモノデアルト云フ。

当時ノ學說ハ、一般ニ、金屬學說ノ發展デアアル。

Menger モ、概シテ言ヘバ、矢張り、金屬學派ノ一人ダト云フ人モアルが之ハ當ラナイト考ノル。

然シ、此ノ貨幣理論ニ、一ツノ時期ヲ劃シタノハ、十九世紀ノ初頭ニ於ケル *Knapp* ノ著^書デアアル。

Knapp "Staatliche Theorie des Geldes"

貨幣國定説デアツテ、「貨幣ハ法制 (*rechtlich Ordnung*)

ノ創造物ナリト。

編述ノ *Altman* ヲ俟ツ迄モナク、一九〇五年ノ貨幣國定説ハ、貨幣理論ノ上ニ、重要ナル意義ヲ有ツモノデアアル。

Knapp ハ、ソノ著書ノ第一頁ノ所デ「貨幣ハ法秩序 (*Rechtlich Ordnung*) ノ創造物デアアル」ト云フ。"Die staatliche Theorie des Geldes" コノ主張ハ當時ニ於テハ、從來ノ貨幣理論ニ対スル重大ナル反逆デアアル。

前述ノ様ニ、當時ノ學界ハ、貨幣理論ニ就イテハ、貨幣ヲ、ソノ内容即チ、貨幣素材価値ニ結びツイテ考ヘル金屬學說ガ風靡シテ居タ時代デアアル。此ノ *Knapp* ノ學說ハ、貨幣価値ハ貨幣素材トハ連絡ガナイトイフ考ヘデアアル。
Knapp ノ説述ノ特色ハ「貨幣ヲ以テ、法律ノ創造物デアアル」トナスが、コノ特色ハ、寧ろ、名目論的 (*Nominalistic*) ナ考ヘ方デアアル。彼ハ當時ノ貨幣理論ニ一生面ヲ打開セシメタト云ヘル。即チ、*epoche-making* ナ考ヘ方デアアル。

名目論的ナ考ヘ方ハ、ソノ後ノ人々ニモ繼承サレタ。

Bendixen 一九〇八年「*Das Wesen des Geldes*」ニ於テ、貨幣証券説 (*Anweisungstheorie*)ヲ發論シタ。之モ名目論的ナ一解説デアルト云ハル。

Lexis “*Allgemeine Volkswirtschaftslehre*”ニ於テ、一九一〇年ニ、金ノ價值ヲ決定スルモノハ、貨幣的用途デアルト述ベテキル。

〔註〕「金屬ノ価値が貨幣価値ヲ決定スル」ト云フ金屬學說ヨリ「貨幣的用途ニ於テ、金屬ノ価値が決定サレル」トイフ名目論ハ發展シタノヲ吾々ハ認メル。

一九一六年、Robert Kiegnannハ、ソノ著書ニ於テ「貨幣ハ計算單位デアル」ト述ベ、極メテ、貨幣ノ名目論的説明ヲナシテキル。

一九二〇年ニハ、Karl Elster “*Die Seele des Geldes*”ニ於テ、貨幣ノ票券説 (*Reichentheorie*)ヲ發表シタ。

斯クノ如クシテ、二十世紀ニナツテ、名目論ガ一方ニ於テ発達シタ。更ニ、名目論ヲ他ノ主觀學派即チ埃太利學派トテ關係ツケル様ニナツタノハ、一九一二年ニ出ク所ノ *Lehrbuch vom Nissens*ノ書物デアル。

此ノ書物ニ於テ、十九世ノ後半ニ於テ、埃太利ニ発達シタ主觀學派ト、名目論トノ、ヲナシタモノト考ヘラル。即チ、彼ハ貨幣ニ関スル經濟的判斷ニ関シテモ、個人ノ主觀的評價ガ、ソノ根柢ヲ形作ル。此ノ主觀的価値判斷ヲ他ノ欺貨ト同様、貨幣ニ於テモ、結局、一欺貨又ハ集團ガ經濟ノ福祉ニ対シテ必要不可欠デアルト云フ。即チ、初用ノ結果、其處ニ出テ来ル重要性ノ程度ニ歸スルコトが出来ル。

現在ニ於テハ、金ノ価値ハ大部分ソレガ貨幣トシテ使用サルルコトニ依ツテ維持サレルモノナルコトハ明カデアルト述ベテキル。

Misesハ、此ノ主觀學說ト貨幣価値ニツイテノ名目論ノ連絡ヲツケタ。本位制度ニ関スル問題ハ、十九世紀ノ中頃(一八七〇年——一八九〇年)ニ涉ツテ、歐洲ニ於ケル銀ノ価値ガ下落シタ事ニ依リ、佛蘭西及ビアメリカ合衆國ガ一緒ニナリ、國際本位制ノ問題ニ関シテ、論議シタ人多ク出タ。

一八七〇年代ニ、埃太利ノ地質學者エドワード・ジューズガ *Zukunft des Geldes*ヲ著イテ、金ノ量ハ殆ンド限界ニ到達シタト述ベ、悲觀的ナ説明ヲシタ。

歐洲大戰以後

歐洲大戰が勃発スルト、各國ハ今迄ノ貨幣制度ヲ捨テ、兌換ヲ停止シ、不換紙幣ノ國トナツタ。即チ、今迄ノ貨幣制度ト異ツタ一種ノ形式ヲ採用シタ。此処ニ於テ生ジタノ貨幣価値ノ下落ト、金属ニ關係ナキ貨幣制度即チ紙幣ノ価値ノ問題ガ一般ノ人々ノ注目スル所トナツタ。従来金属學說ハ金属ト關係シテ貨幣価値ヲ説明シテ来タノデアルガ、兌換が停止サレルト金属ハ關係が分離シタカラ、紙幣価値ノ問題が發生シタ。コノ状態及び經濟現象ハ一層名目論ヲ助長シ、金属ト關係ナク貨幣価値ヲ説明セントシタ。

更ニ、歐洲大戰後、各國が当時、經驗シタ所ノ貨幣制度ノ攪亂ハ不換紙幣ノ發見及び之ニ結果スルインフレーションノ整理ノ問題ニ直面シ、茲ニ種々ナ貨幣理論ガ此ノタメニ刺戟サレ、發表シタ。

歐洲大戰後ノ貨幣問題ハ本位制度ノ確立ニ關スル論争デアツタ。

英國ハ一九二五年、金本位ノ復歸 (return to gold) シタ。此ノ一九二五年前後ニ於テ、金本位制ヲ中心トスル論争が多い。

劍ノバウ・ハウトリハ、英國ガ "return to gold" スンキコトヲ説キ、Gregory は "The first year of gold standard, return to gold" ニ於テ同様ニ述ビテキル。

之ニ對シテハ、Gustav Cassel ノ他 Keynes ハ、金本位不要論者デア

ル。
Keynes ハ、金本位制度ニハ不賛成ヲ唱ヘ、金ヲ基礎トシタ貨幣制度ハ、金ト物トノ交換、物々交換即チ昔ノ未開時代ノ考ヘ方ノ遺物デアルトシテキル (plucked monetary reformer.)

Cassel ハ、國內的ニハ、金本位制度ハ不必要デアリ、唯インフレーションヲ阻止スル手段トシテノミ存在ノ意義ガアルトシテキル (準備制度)。

コノ論争ニ依リ貨幣理論ハ發展ヲ見タノデアル。然シ、コノ論争ノ結果、一九二五年、金本位制ハ実施サレ、金本位制ノ成立後、金本位制ノ本質ノ変化ニ對スル研究ガ為サレタ。金本位制ハ歐洲大戰ヲ境トシテ、本質上ノ変化ヲシタ。

「註一」戰前 gold coins が流通シタ。金貨ハ國內的意味ニ於テ存シタ。
戰後 gold coins が流通セズ。金貨ハ國際的意味ニ於テ存シタ。

ソノ点デ一般ノ注目ヲ惹イタノデアルガ、英國ハ一九三一年ニ再ビ金本位制ヲ停止シ、世界ノ通貨ハ再ビ混乱シタ。茲ニ於テ金本位制ノ再検討ガ為サレ、殊ニ、世界経済会議ト併行シテ、又金銀兩本位ノ問題ガ抬頭シタ（即チ、*Symmetrism*ノ問題）、即チ、米國ノ銀問題ト一般通貨問題トが合体シ、一九三一年前後、財政委員会ニヨリ *Macmillan Report* ナル金本位制ニ関スル書ガ公ニサレタ。又、之ハ当時ノ英國ノ金融状態ヲ見ルニ良ク、ソノ他、*May Report* モ刊行サレタ。

Gregory: *The future of Gold Standard.*

Keynes: *The Treatise on Money. B. II.*

然シ、之ト同時ニ、世界不況ノ深刻化ニ伴ヒ、ソノ打開策トシテ、通貨政策ガ論議ノ的トナツタ。茲ニ、貨幣政策ト景気政策トが聯関スルニ至ツタ。コノ聯関ノ下ニ、貨幣問題ガ論ゼラレル様ニナツタ。

Hayek: "Geldwertstabilisierung und Konjunktur"

英ノ金本位制停止ハ世界ノ國々、殊ニ從來ヨリノ金本位制國ヲ驚愕センメタ。而シテ、金本位制ヲ棄テ、紙幣本位制ヲ採用スル國ニハ、ニツノ問題ガ発生シタノデアル。

(i) 紙幣本位ニ於ケル貨幣価値下落ノ問題

(ii) 貨幣価値安定通貨トシテ如何ナル新貨幣制度ヲ樹立スベキカ。

從ツテ第一ノ問題ハ、*inflation*ニ関スル問題デアル。即チ、不況打開ノ方策ガ通貨政策ト結合スルトキハ採用サレル方法デアリ、物價引上げ策トシテインフレ政策ヲ採ル問題デアル。ソレデ、コノ問題ハ當然論ゼラレネバナラス、殊ニ具体的ナ問題ハ、米國ノ政策、殊ニ一九三一年度 *Hoover*ノ消極政策ヨリ *Roosevelt*ニ至リ、益々積極的トナツタ（*New Deal*ヘノ轉換ノ問題ガ論ゼラレル様ニナツタ。通貨膨脹論者ト健全通貨論者トノ抗争）。

価値安定策ノ研究ハ、平價切下ゲノ問題（*devaluation*）デアル。即チ如何ナル貨幣制度ヲ採ルベキカト云フ貨幣ノ改革問題デアル。平價切下ゲノ問題ハ、米國ガ $\Delta 10\%$ ノ切下ゲヲマリ、之ニ関シテ、平價切下ゲノ意義ガ論ゼラレタ。殊ニ、歐洲大戦直後ノ平價切下ゲトハ、ソノ意義ガ変化シテキル。

之ト夫ニ、將來ノ新貨幣制度トシテノ、金本位制ハ再ビ研究ノ俎上ニ上ツタ。
 Fisher ; "Inflation, after deflation, what?" ソノ具體的
 ナ問題ハ、フランスヲ中心トスル金ブロックノ問題デアル。ソレニ對シテ、
 紙幣ブロックヨリ、又 pound ブロック (sterling bloc) へノ問題ガ
 アル。即チ、金本位ブロック (gold standard bloc) ト紙幣本位ブロ
 ック (paper standard bloc) ノ對立ガ論セラレ、又、異ツタ立場カラ
 別ノ貨幣制度ヲ樹テタ人モアル。

最近ノ事實トシテハ、ベルギーノ金本位制離脱問題ニ因シテ、世界通貨政策
 ノ転移ニ注目スル様ニナツタ。

一ツハ平価切下ゲヲシテ金本位制ニ戻ルノが從來ノ政策デアルガ、米國及ビ
 白耳義ノ方法ハヨク似テキル。即チ、兌換停止ヲ行ヒ、ソレニヨリ得タ評價益
 カラ為替平衡資金ヲ支出シ、金本位制ヲ採ラズニ、ソノ優平価切下ゲニヨル新
 制度へ転回ガナサレタ。

要スルニ評價益ヲ捻出シ準備ヲ充分ニシタ後デ金本位へ戻ラヌ。之ハ為替平

衡資金ヲ合法的ニ出スノミデ、單ニ計數的數字ノ問題ニ過ぎヌ。平価切下ゲハ
 金本位制復帰 (return to gold) デハナク、平価切下ゲハ金本位停止デア
 ル。

ソノ他、米國ノ銀政策ニ關係シ、一時銀ハ下落シタガ、銀政策ニヨリ銀價ノ
 騰貴ニ從ヒ、中華民國ノ經濟事情が変化シタ。(物価下落シ、金融恐慌トナル)
 即チ、銀ニ關シテ、米支ノ政策が対立シタガ、遂ニ昨年十一月ニ、米國が幣
 制改革ヲ断行シ、銀本位制ヲ離脱シタ。茲ニ於テ、銀問題モ通貨問題トシテ世
 界ノ人々ノ関心ヲ惹ク様ニナツタ。

以上デ大体、貨幣理論ノ發展ヲ見タノデアアル。

第二篇 貨幣ノ基礎的概説

貨幣理論ノ研究ニハ、ソノ本質論ト価値論トガアル(十九世紀獨逸ニ於ケル

*Altmann*ノ分類ニ依ル。 *Zur deutschen Geldlehre des 19. Jahrhunderts*)

(i) 貨幣ノ本質論

(ii) 貨幣價值ニ関スル問題

第一ハ、貨幣ヲ社会發達体ノ中ニ於テ、觀察スルガ、寧ロ、ソレヲ靜態的 (statistisch)ニ見ル、質的 (qualitative)觀察デアル (das statisch-qualitative Geldproblems)。

第二ハ、觀察ノ動態的 (dynamisch)デアル、量的 (quantitative)ト觀察デアル (das dynamisch-quantitative Geldproblems)。

(1)ニ於テ取扱フベキ問題ハ貨幣ノ本質、貨幣が如何ナル機能 (Funktion)ヲ有シ、如何ニシテ之が發生シ、即チ、如何ニシテ貨幣が成立シタカデアリ、並ビニソノ組織 (貨幣制度)デアル。

(2)ニ於テ、貨幣價值ハ如何ナルモノデアラカヲ觀察シ、然モ主タル目的ハ、貨幣ノ価値ノ成立及ビ變動 (高低)ヲ対象トスル。之ハ貨幣ノ動態的觀察デアリ、同時ニ量ニ関スル觀察デアル。

第一章 直接交換

第一ニ、貨幣ノ本質論即チ質的、靜態的問題デアアルガ、最初ニ敘述シタイノハ、貨幣ノ發生ノ問題デアアル。

貨幣ノ發生ハ、貨幣ハ交換ノ媒介物、即チ、一般的交換手段 (allgemeine Verkehrsmittel)ナル事ヨリシテ、交換ナキ社会ニハ貨幣ハ存セズ、從ツテ貨幣ノ發生ハ交換経済トナリ、又、自由ナル交換ヲ前提トスル。

然シテ貨幣ノ發達ハ、交換場裡ニ於ケル取貨ノモツ經濟的性質ニ、ソノ發生

原因ヲ求メネバナラスト思フ。
先ヅ、交換ヲ考ヘル。

○ 自給自足的な自然経済

交換ノ第一形式ハ直接交換デアレ、少シク、吾人ノ生活ノ初メニ遊レバ、自給経済デアツタ。コノ経済様式ハ、吾々ノ経済生活ノ発展ニ伴ヒ、慾望 (wants) ノ分化、即チ、價的・量的発達ニ伴ツテ亡ビ、他トノ交換経済が行ハレルニ至ツタ。

交換ノ最初ノ形式ハ掠奪デアル。ソレカラ漸次、平和的ナ交換が行ハレル様ニナツタ。ソレハ交換ノ性質ヲ漸次、人々が認識スルコトニヨリ、掠奪ハ平和的交換ヘト発展シタ。

或人ハ曰ク、『交換ノ性質ハ交換ニ於ケル当事者ノ何レカ一方が損失シ、他方が利得スルモノダ』ト。

又、或人ハ曰ク、『交換ハ相等シイモノが交換サレルノダ』ト。
モシ、前者ナレバ、損失スル人が、何故ニ交換当事者トナルカ。

若シ後者ナレバ、交換ハ存シナイ。

故ニ何レモ交換ノ説明トハナラス。

茲ニ至ツテ第三ノ見解が生ズル。交換当事者ハ、何レモ利スルノデアアル。即チ交換サルル財貨ニ対スル主観的評價が異ル。即チ、相手方ノ財貨ヲ高ク評價スル。

即チ、自然経済ノ内部ニ於テハ、ソノ所有者ニトツテ相対的ニ少ナイ価値ヲ有スル自然財貨又ハ勞務が彼ニトツテ相対的ニ大ナル価値アル他ノ自然財貨又ハ勞務ト引換ヘニ與ヘラレルト云フ方法ニ依リ自然交換トシテノ交換が行ハレタ。(Handwörterbuch der Staatswissenschaften IV. Bd.)

然シ、平和交換ノ第一形式ハ言フ迄モナク、直接交換デアアル (barter exchange)。

交換当事者ノ所有スル財貨ヲ直接ニ交換スル。然シ、コノ直接交換ハ種々ナル困難ヲ伴フノデアアル。

第一ハ、交換当事者、即チ相手方ヲ見出スコトノ困難デアアル。

第二ノ問題ハ、交換数量上ノ折合がツカヌコトハ、之ハ重要ナ事柄デアアル。

第三ノ困難ハ、交換サルベキ財貨が分割性ノアルモノデナケレバナラヌト云フコトデアル (*divisibility* ノ問題) 以上ノ如キ場合ニ於テハ、直接交換ハ容易ニ行ハレナイ。

第二章 貨幣ノ發達

○貨幣ノ流通性ノ差異

物々交換ハ、實際上、種々ナル不便ヲ随伴セシメルが故ニ、コノ交換形式ハ永續セズシテ、之ニ代位スベキ交換形式が起ツテ来タノデアル。ソレハ何デア
ルカ。

之等ノ財貨が直接交換ニヨリ、交換サレテ居ル間ニ、財貨ノモツ経済的性質ニヨリ物々交換ノ不便ハ打倒サレル様ニナツタ。交換シテ居ル間ニ、一財貨ハ他財貨ヨリ流通性ノアルモノが出テ来ル。人が依ンデ受ケトル財貨がアル。例
ハバ、貯藏シ得ル食品、裝飾品等デアル。之ヲ財貨ノモツ流通性⁽¹⁾ 一般販
路性⁽²⁾ 市場性又ハ市場流通性⁽³⁾ ト云フ。

(1) *Umlaufsfähigkeit*

(2) *allgemeine Akzeptanzfähigkeit*

(3) *Marktgängigkeit*

or *Gangbarkeit.*

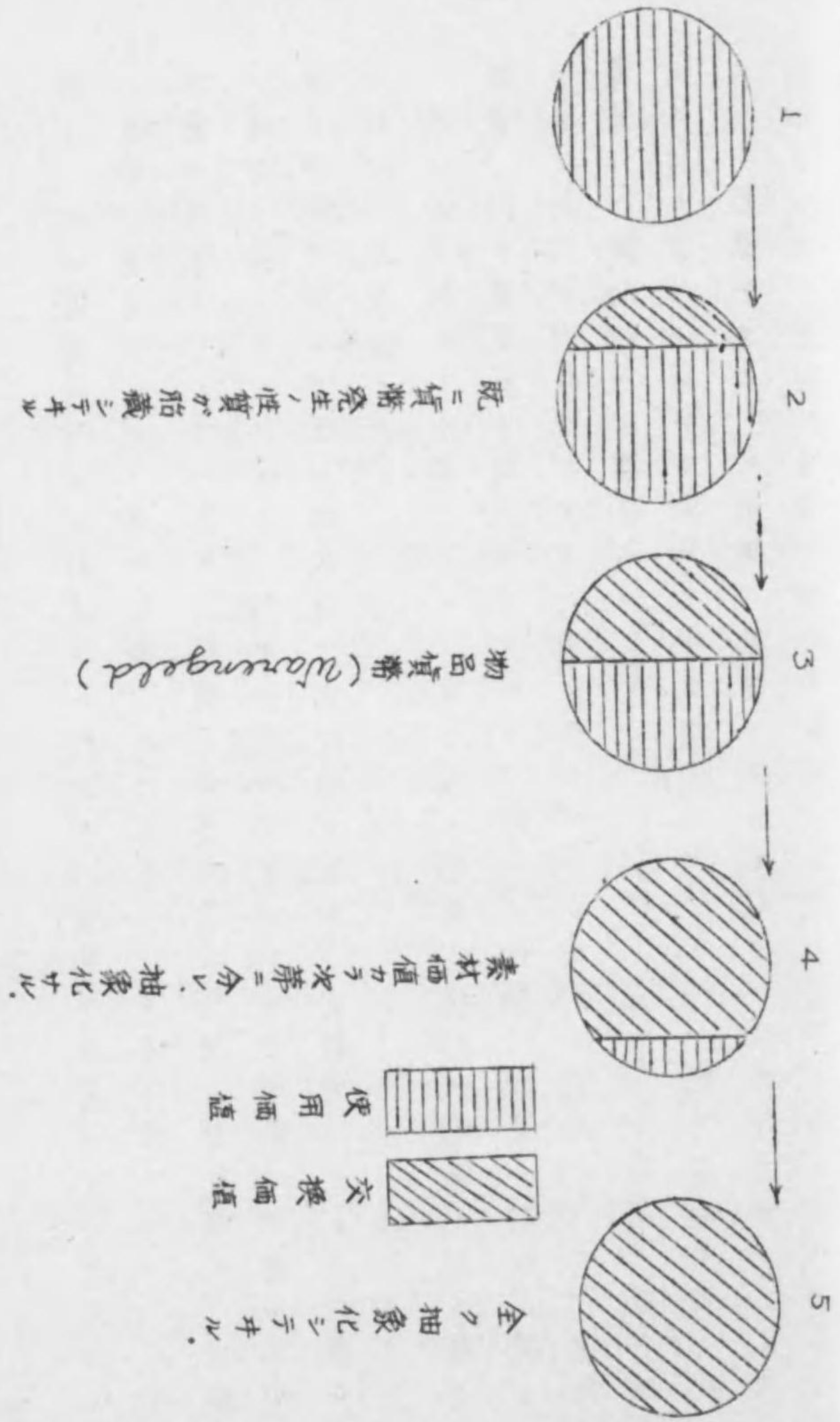
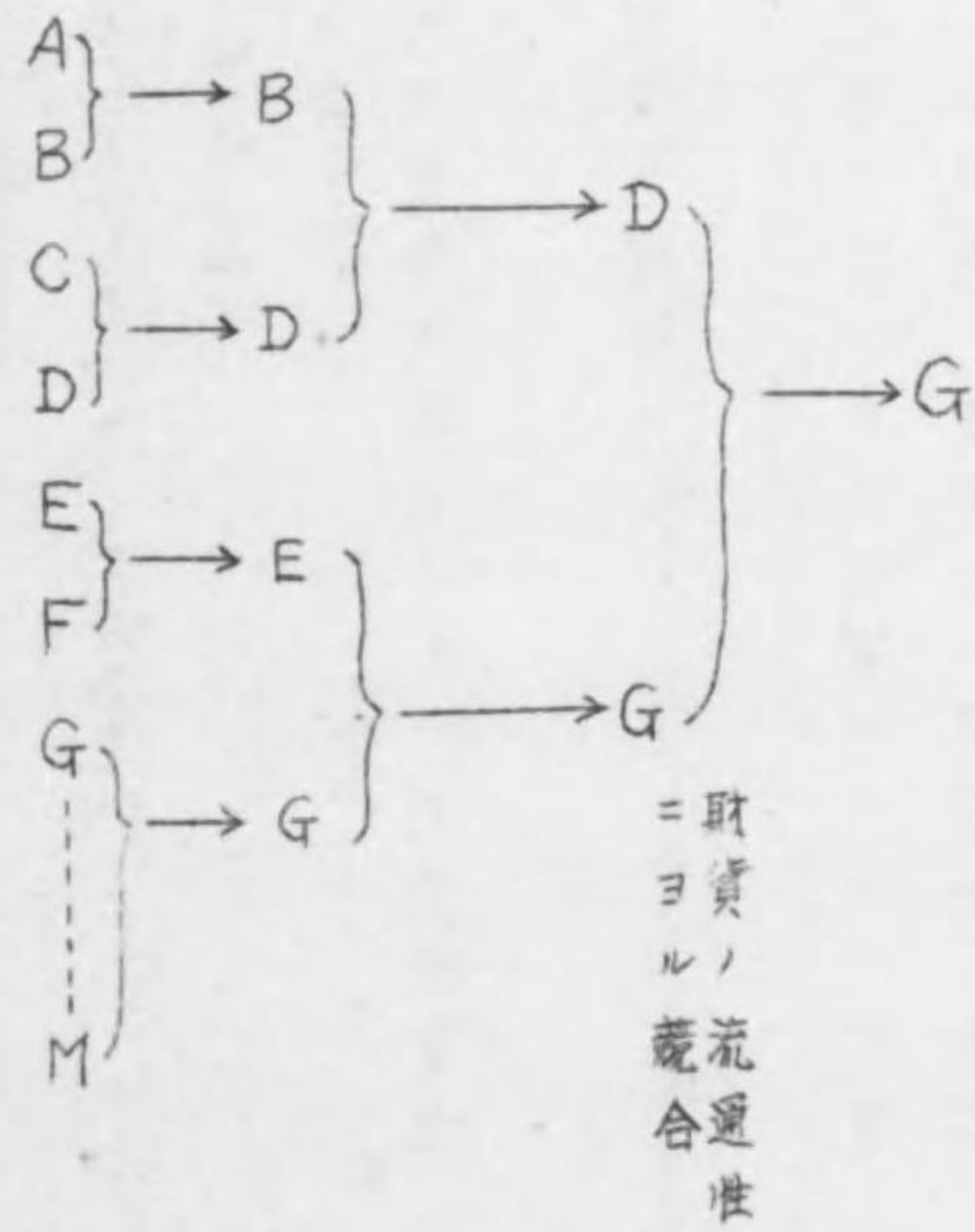
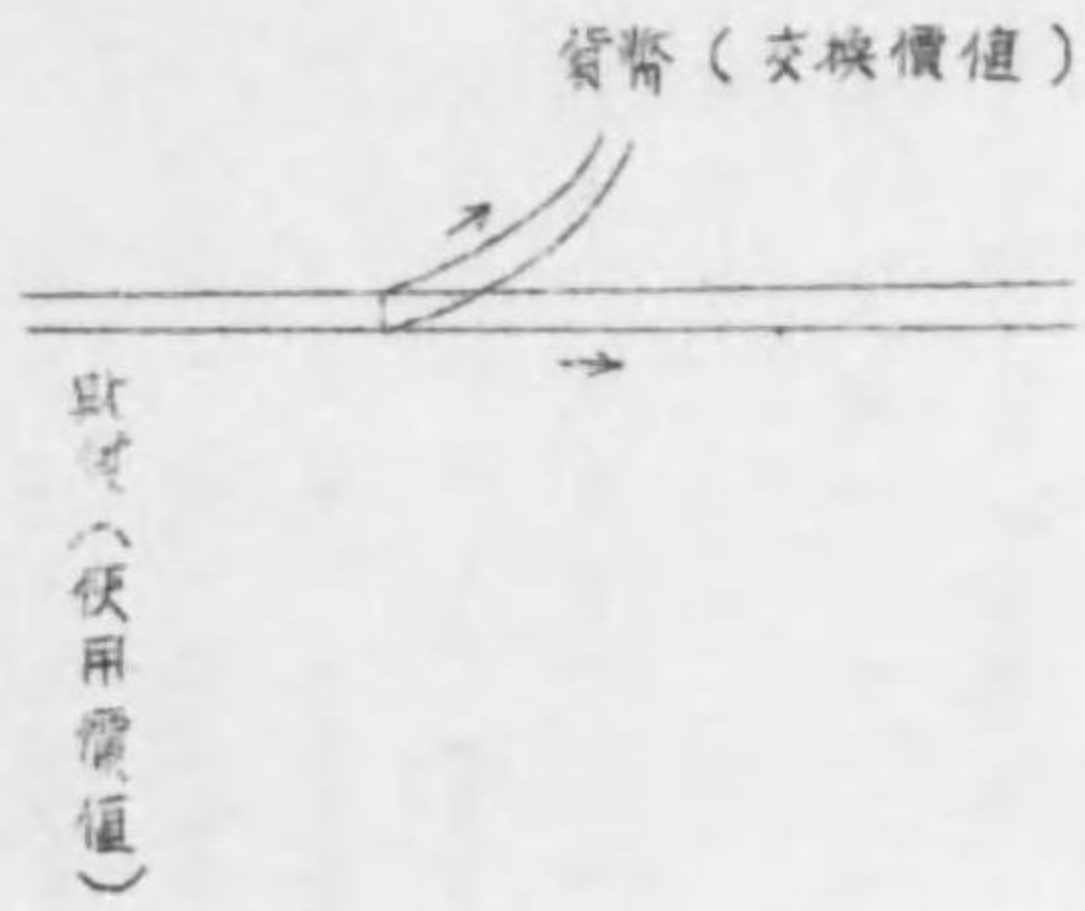
即チ、人々が依ンデ受領スル程度ヲ云フノデ、之ヲ接受性 (*Acceptability*)
トモ云フ。

斯クノ如クシテ、一般的授受ノ慣習 (*die Massengewohnheit der*
Gemeine) が發生シタ。

然シ財貨ニヨツテハ此ノ性質がアルが、財貨ニヨリテ程度ノ差違がアル。ソ
コデ交換ヲシテ居ル間ニ、コノ財貨ノ具有スル流通性ノ差違ニヨリ少シデモ流
通性ノアル財貨ヲ以テ交換手段トシヨウトスル。ソコデ交換ヲシテ居ル間ニ、
人々がコノ性質ヲ認識スル事ニ依リ、流通性ノアルモノヲ以テ交換手段トスル
様ニ漸次習慣ツケラレル。ソコデ其等ノ財貨が交換ノ対象トナルコトハ、当初
ニ於テハソノ財貨ノ性質即チ使用価値ニ依ツテデハアルが、漸次ソレ以外ノ役
目ヲ有スル様ニナル。

元来ソノ財貨ノ有スル使用價值ノ故ニ其レヲ必要トセズ、ソレト同時ニ、流通性ヲ有スル事ニ依リ交換ノ手段トシテ用ヒラレル様ニナツタノデアル。之レ貨幣ノ觀念ノ独立ノ基礎トナツタノデアル。

左図ノ如キ発達が見ラレル。



○流通性ノアル財貨

斯クノ如キ流通性ノアル財貨トハ如何ナル種類ノ財貨デアロカト云ヘバ

(i) 生活必需品デアアル。之ハ勿論、吾々生存ノタメ不可缺ナレバ、人々ハ從來多量ニ保有スルト考ヘテモ、將來ノ必要ヲ考ヘテ攸ンデア取ル。勿論、時代・場所ヲ異ニスルニ従ヒ、何が生活必需品デアロカハ異ツテ来ル。食料品ハ此ノ一例デアアル。但シ耐久性ノアル物ニ限ル。又鬪争ノタメノ武器モ、コノ一例デ、流通性ヲモツ。

(ii) 其ノ物ヲ所有スル事ニヨリ、其ノ人ノ名譽・権力ヲ外部ニ示ス事ノ出来ル財貨、即チ優越觀ヲ満足サセルモノ。例ヘバ奴隸・家畜(遊牧民族デハ)等ニヨリ自己ガ財産家デアリ、権力者デアロコトヲ外示スル。又、裝飾品(贅澤品)ハ識別性ヘノ慾望(Love of distinction)即チ、他ト同一視サレタクナイ。少シデモ余計ニ身ヲ飾ルト云フ事ハ、殊ニ原始未開ノ人々ニハ大ナル慾望デアリ、且無限ノ慾望デアロガ故ニ、依然受領スル。且又、之ヲ缺如スルモ、左程ノ苦痛ヲ伴ハヌ故ニ、交換ノ必要ノ為メニハ直チニ提供シ

又受領スル。物品貨幣(Warengeld)ノ内容ヲ按ズルニ裝飾品が多い。

○物品貨幣

以上、舉止シタニ財貨ハ、他財貨ニ比シ、ソノ有スル流通性ハ多大デアロガ故ニ、物品貨幣トシテ、交換ノ媒介ヲナスニ至ツタ。然ウシテ、物品貨幣ハ本來ノ使用価値ト決シテ分離シタモノデナイ。

即チ、(i) 元素ソノ財貨ノ有スル使用価値(効用)ト、(ii) 交換媒介物トシテノ職能(交換価値)ヲ双方トモ併有シ、(iii) 職能ノミガ獨立シタ訳デハナイ。

然シ、物品貨幣ヲ二種類ニ分類スルガ、此ノ内容ニ於テハ、時間的ニ、空間的ニ別異デアアル。

(i) 場所的制限

自然的、地理的場所ノ相違ニ依リ、物品貨幣トシテ使用サレルモノハ異ル。例ヘバ、山地ハ毛皮、獸、平野デハ穀物、川邊ヤ海辺デハ貝殻ト云フ如ク自

然ニ支配サレル。

(2) 時間的制限

即チ時代の相違デアル。生活ノ程度即チ農業時代・遊牧時代等ニ依リテ物
品貨幣トシテ用ヒラルルモノニ差異ガアル。今、物品貨幣トシテ如何ナル財
貨ヲ使用シタカ。物品貨幣ハ古代及未開地ニ於テハ現代デモ用ヒテ居ル。後
者ノ例トシテ *ferrous*、*money*、*iron* 中ニ鉄並セラレテアル巴厘ノ女
歌人マドマゼル・シエリーノ物語ガアル。即チ南洋トカノ未開人種ノ中デ
歌ヒ、ソノ代償トシテ、豚三頭・七面鳥二十三羽・雞・バナナ・蕃蔥等換価
シテ約四〇〇フランヲ貰ツタ興味アル物語ガアル。

時代ニ依リ物品貨幣ニハ特色ガアル。

(1) 狩獵時代

之ニ関係シタルモノガ物品貨幣トシテ用ヒラレタ。即チ毛皮、麋皮デアル。

之ハ見栄ヲ張ル裝飾品デ、当初ハ毛皮一枚デ交換シタガ、後ニハ毛皮ノ一部
ノミデ交換シ、後程適當ナ時期ニ全部ヲ受領スル。之ガ信用ニ依ル貨幣即チ
紙幣ノ起源ト言ハレ、次第ニ毛皮ノ一部ガ輒輒流通スルニ至ツタ。
貨幣ト云フ言葉ノ起源ガ「皮」デアル事例ガアル。和蘭語ノ *Rack* ハ元來
麋皮ヲ意味シタガ、後ニ貨幣ノ意義ヲ有ツニ至ツタ。又、毛皮 (*skins*) デ
米因インディアント交換シタト云フ記録ガ存シテキル。

(2) 遊牧時代

(1) 家畜 デ例ヘバ、牛、馬、羊、豚等ガ用ヒラレタ。 *capital* (頭)
ハ家畜ト云フ言葉カラ由來スル。 *pecus* ハ家畜デアリ、*pecuniary*、
(金銭的)ト云フ語ガアリ、古イ時代ハ牛何頭、馬何頭ニ相当スルト云フ。
pec (*vis*) 「料金」ナル語ハ家畜ト云フ言葉デアリ、*Schatz* (宝)モ家
畜ト云フ言葉ニ由來スル。 *Rupa* ハ家畜群デアアル。家畜ト云フ言葉ト貨
幣ト云フ言葉ニハ関係ガアル。家畜ガ交換ノ媒介物トシテ用ヒラレタ事ガ
アル。


(i) 奴隷ヲ以テ交換スル事モアル。之ハ種カヲ示ス手段デアルカラ。
 (ii) 裝飾品 *Wampumpeas* 南京豆(白又ハ黒)長サニ依ツテ用ヒラル。貝殼 (Cowry shell) 子安貝(貝幣)貝ト貨幣トガ同様アルコトハ直グ分ル。支那ノ寶・財貨具ノ他金錢ニ同スルモノハ「貝」ガ附イテキル。財宝・寶買・購等。
 然シテラ、貝殼ハ時ガ経過スルト駄目ニナルノデ、後ニハ金屬デ貝殼ノ形ヲ作り之ヲ用ヒタ。又、蘇マ犬ノ齒・象牙・琥珀 (*Amber*) モ用ヒラレタ。

(3) 農業時代

穀物(小麦・米・オート麦・玉蜀黍等)ヲ物品貨幣トシテ交換シタ。ソノ他、雜卵・蜂蜜・茶・岩塩・煙草 (*Virginia*)、胡椒(ボルゴマ・パルノ)、砂糖、椰子ノ実(ダノテンゲルド)、カンオホーネゲルド、綿布(クライデルゲルド)、畳表 (*matengeld*)、其ノ外ニ指環 (*ring*)、ダイヤリ、海岸地方ハ干魚(例ヘバホシダラ)、貝殼デアアルガ、真珠貝 *Stingeld*

木皮デ作ツタモノ、頭蓋骨又ハ *Agree* (支那ノ馬蹄銀)、キッツキノ頭ガアル。
 要スルニ必需品・裝飾品ニ同スルモノガ用ヒラレタ。

鑄造貨幣ノ出現

ソレ等ノ種々ナ財貨ノ中デ如何ナルコトが行ハレタカト云ヘバ、物品貨幣ノ同デ競合ト云フコトが行ハレ、少シデモ流通性 (*Umlaufsfähigkeit*) アルモノガ他ニ優ツテ慣用セラレルノデアアル。
 ソコデ漸次其ノ同ニ競合が行ハレタ。結局、最後ニ残ツタモノハ金屬デアアル。然シ金屬ト云ツテモ、其ノ最初ハ現在ノ様ナ鑄造貨幣デ無ク一々秤量シタ。之ヲ金屬秤量時代ト云フ。ソレカラ少シ進ンデ来ルト鐘ニ入レル様ニナツタ(砂金 )。アルモノハ金ノ塊リニ刻印ヲ押ス、又ハ細イ針金狀ノ指環ニシ、指環幾ツ、又ハ鐘何程トイフ風ニ用ヒタ。漸次進ムニ從ヒ、秤量トカ刻印ヲ押サズニ地方ノ権力者ガ豫メ一定ノ型式ヲ定メ、内容・目方・質ヲ一定シ、一定ノ符号ヲ附シタ同種ノモノヲ世ノ中ニ出ス。紀元前七百年代ニ既ニ存シタ。即

チ、愈々鑄錢時代ニ成ツタ。鑄貨ノ出現ニ依リ貨幣ニ大ナル変化が現ハレタ。鑄造貨幣ノ經濟上ノ影響及ビ交換媒介物 (Gausmittel) ノ獨立デアル。

貨幣觀念ノ獨立

金屬秤量時代ハ交換媒介物ト同時ニ裝飾品トシテノ性質が併立シテキタ。然ルニ、鑄造貨幣ニナルト交換價值が獨立シタ。之ハ裝飾品デモナク、生活必需品デモナク、交換媒介物、流通手段デアル。即チ、物品貨幣ト明別サルベキデアル。金屬が交換手段ナルが故ニ發行サレル。即チ貨幣觀念ノ獨立性が認めラレル。

ソノ次ニ鑄造貨幣ノ出現ニ依リ、交易ノ場合ニ共通ナル手段、評價ノ手段即チ公分母が英ヘラレル。

計算ノ單純化

鑄造貨幣ノ出現デ、今迄ノ財貨ノ價值が金屬ノ目方(量目)デ表示セラレテキタモノが貨幣ノ單位デ表示セラレル様ニナツタ。例ヘバ、鑄造貨幣ノ個數デ

計算シ、拾圓金屬何箇トイフ。

註	(量目)	(單位)
一匁	金貨	五円
二匁		十円
五円・十円ハ貨幣ノ價值デナク、數量ノ單位、計算單位デアル。		

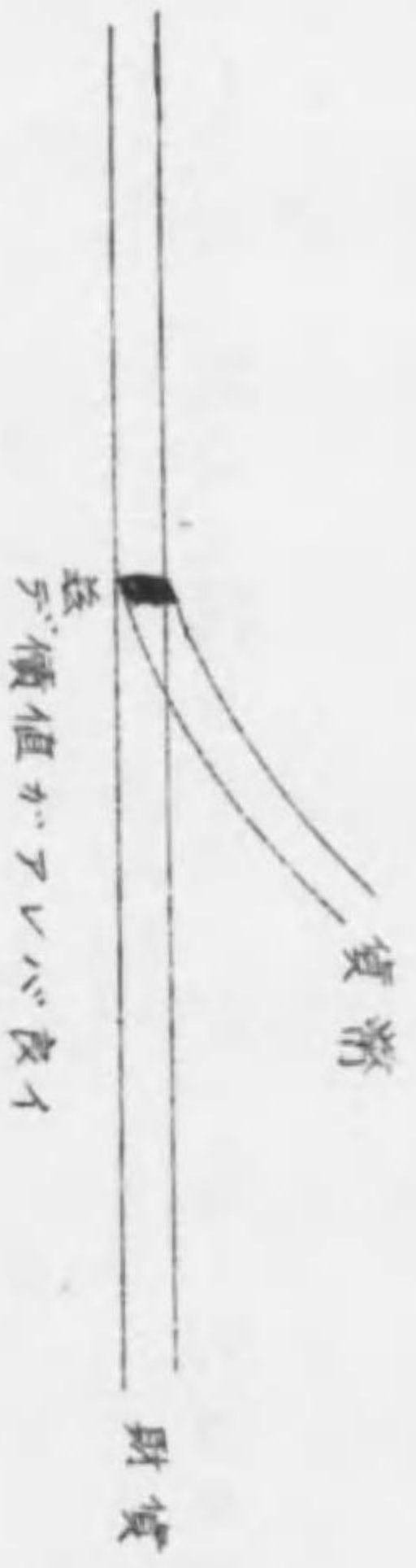
此ノ三ツノ事ハ鑄造貨幣ノ出現ニ依リ生ジタトコロノ經濟上ノ影響デアル。鑄造ト云フが、現在ハ圧搾 (Press) デアル。即チ鑄造貨幣ハ物品貨幣ト異ナレル性質ヲ有ツ様ニナル。

金屬ノ特性

然ラバ金屬ハ何故ニ最後ニ残ツタカ。之ハ次ノ如キ金屬ノ特性ニ依ルモノデアル。

① 効用・価値ヲ有スル事デアル。
貨幣価値ノ所デ詳述スルガ、注意スベキハ素材的ノ価値ヲ有タネバナラヌ

ト考ヘルノハ誤リデアル。交換媒介物トナル時ニ価値ガアレバヨイ。



貨幣トナレバ即チ貨幣トシテノ職能ヲ有ツ様ニナレバ、其ノ後ハ素材価値ヲ有ツ事ハ必ズシモ必要デハナイ。

貨幣ノ発生ハ交換場裡ノ財貨ノ中カラ生ジタ。従ツテ交換場裡ノ財貨ハ交換ノ対象トナル。即チ価値ガアル。又、価値安定ヲ希ゲル人がアルが、使用価値カラ分離シテ行クカラ価値ガ安定スル、シナイハ問題デナイ(金本位制ニツイテ、金屬論者ハ斯ク言フハ)

- ② 運搬性 *Portability*
 - ③ 不破壊性 *Indestructibility*
- 之モ貨幣トシテノ一條件デアツテ、流通輾転スル間ニ壞レテハナラヌ。

- ④ 分割性 *divisibility*
 - ⑤ 均質性 *homogeneity*
 - ⑥ 識別性 *distinctiveness*
- 之モ交換媒介物トシテ必要ノ條件デアル。
- 分割サレテモ均質性ヲ有ツ。
- 金ト銀、銅、白金、ニッケル等が一見シテ識別出来ル。

金屬ハ之等ノ性質ヲ兼備シテ居ル。之等ノ事カラ金屬ガ物価貨幣ノ中デ競合ノ結果、最後ニ残ツタノハ決シテ偶然ノコトデハナイト思ハレル。

金屬ノ素材タル金屬

ソコデ金屬ガ鑄造貨幣ノ材料トシテ用ヒラレル金屬ノ種類ハ次ノ如キモノガアル。

- ① 鉄。古イ記録ヨリシテ古代使用サレタガ、鉄ハ腐蝕スルタメ保存サレテ

キルノハ少数デアル。昔ノ鑄錢ハ之デアリ、徳川吉宗時代(一七三七)年元文二年ニ鑄錢ノ記録ガアル。

② 鉛。ギリシヤノ人々ニ用ヒラル。日本デハ皇紀八三五年、仁明天皇ノ承和二年ニ用ヒラレ。又醍醐天皇、村上天皇ノ時ニモ、用ヒラレタ。

③ 錫。日本デハ永正九年(一五一二年)及ビ英國デ用ヒタ。

④ 銅。羅馬ノ金屬貨幣ハ主トシテ銅デアリ、ロシア、スエーデン及ビ日本デモ用ヒタ。

⑤ 銀。昔ハ金ヨリモ高カツタノデアル。

⑥ 金。

⑦ 白金。露國ノウラル地方デハ一八八二年ヨリ一八四八年迄用ヒタが直グ廢シタ。之ニハ、一ロールブル、六ロールブル、三ロールブル等金額が大デ、且ツ小量デ不便ガ多カツタ。

⑧ ニッケル。白銅ヲ廢シテ用ヒラレタ。

*sevens*ノ書物ニハ種々ナル合金ガ載セラレテアル、例ヘバ、青銅貨(*klang*)

真鍮貨(*kleast*)、アルミニウム(*aluminium*)デ後者ハ歐洲大戦ノ際、行ハレタ。

今日デハ大体、金、銀、銅、ニッケルガ普通デアル。

第三章 貨幣制度ノ確立

I. 鑄造貨幣ト國家

斯クノ如クシテ貨幣ガ金屬貨幣即チ鑄造貨幣ニ依リ定型化サレ、色々雜種ナル貨幣カラ一定ノ形式ヲ有ツタ貨幣トナル。即チ、貨幣ノ獨立的ノ存在ガ明ラカニナツタ。

然シ、交換ノ媒介物ハ斯クノ如ク單純化サレタガ、實際ニ於テハ尚、其ノ從來ノ不便ガ必ズシモ減少シタト云ヘナイノデアル。成程鑄貨ト云フ形式デ貨幣ノ單純化ハ為サレタガ、鑄造貨幣ヲ発行スル者多ク、地方的勢力アルモノガ貨

幣ノ鑄造ヲスル。ソノ結果同一地方デモ、二種或ヒハ三種ノ權力者ノ貨幣が混在シテキルト云フ有様デアアル。

リデヤ (Lydia) ハ鑄造貨幣が最初ニ行ハレタ所デアアルガ、此如デモバビロニ式ノ通貨トフエニキヤ式ノ通貨ト云フニ種ノ制度ガアツタ。ソノ間ニ価値ノ相異ガアツタ。恰モ由天ト歎ヌトノ如クデアツタ。其ノ外、ギリシヤ都市ニモ同様ノ現象ガアツタ。又、中世末期ニ於テ獨逸内ニ六百ヶ所モ貨幣鑄造所ガアツタ。色々ナ貨幣が混在シテキタ。中世ニ於テ厚利ノ通貨ガ優勢デ、諸モノ地方ニ入り込ミ之ト同時ニ色々ノ通貨ガ発行サレ、貨幣ノ改悪 (debasement) ガ行ハレ、貨幣ノ識別ノ困難ナル場合ガ生ジタ。其ノ外、一般ノ人々、経済的見地或ヒハ利益カラ見テモ統一化サレタ貨幣ヲ有ツト云フコトハ、當時ノ状態トシテハ必要デアツタノデアアル。統一アル貨幣制度ハ不統一ナル鑄貨カラ統一アル鑄造ヘ取替シタガ、地方的勢力ガ強イ場合ハ駄目デアアルガ、統一アル貨幣ハ近世中央集权的國家ガ發生スルト共ニ實際化シタノデアアル。中央集权的國家ガ起ツタ後モ、貨幣ノ發行ハ統一スル必要ナク、各自ノ私鑄 (private coin-ing or Privatprägung) ニ任シテモ差支ヘナイト考ヘル人ガアル。然

シ之ハ他ノ財貨ト異リ私鑄ニスルト色々ナ弊害ガ起ル。私鑄ニ任シテ良イトスレバ、ソノ間ニ自然淘汰ガ行ハレ、良貨ハ悪貨ニ劣レ、悪貨ハ漸次追ハレ、ソノ結果良貨ノミガ流通スルニ至ルト Spencer ハ述ベテキル。

然シ、之ハ貨幣ト一般商品トノ間ニ存スル相違ヲ無視シタ考ヘデアツテ、貨幣ト一般商品トノ間ニハ極メテ著シイ差異ガアル。貨幣ノ場合ハ悪貨ガヨリ余計ニ用ヒラルル現象ヲ呈スル。即チ、グレシヤムノ法則 (Gresham's Law) ノ所謂「悪貨ハ良貨ヲ駆逐ス」 (Bad money drives out good) デアル。

II 貨幣ノ統一の觀念

従ツテ、ソコデ現在、何処ノ國デモ貨幣ハ決シテ私鑄サセズニ、國家ガ之ヲ統一シ、一定ノ貨幣制度ノ下ニ發行シテキル。即チ、貨幣發行ハ國家ノ唯一ノ権利 (獨占權) トナル。

(一) 何故ニ國家ガ統一の貨幣制度ヲ布キ、鑄造貨幣ノ發行權ヲ独占スルノカ、政府独占ノ理由ハ次ノ如クデアアル。

(i) 貨幣ノ統一上、流通ノ円滑ヲハカル為メ鑄造貨幣ニ依リ貨幣ハ定型化サレテキル。今、多種ノ貨幣ガ発行サレレバ、異種ノ貨幣間ノ価値関係ハ複雑トナリ、貨幣ノ良悪ヲ辨別スルコトが困難トナル。故ニ経済的交通カラ見レバ不便多ク、国家ガ之ヲ統一シ、單一ナル制度ノ下ニ統一サレタル貨幣ヲ発行スレバ、円滑ナル流通ヲ期待スルコトヲ得ルノデアル。

(ii) 貨幣ノ信用維持ノタメデアル。地方的ニ種々ナル貨幣ガ発行サレテ居ルトキハ、其ノ善悪ヲ區別スルコトが困難ナル為メニ流通ハ円滑ヲ缺キ、又価値ノ下落モ惹起サレル。

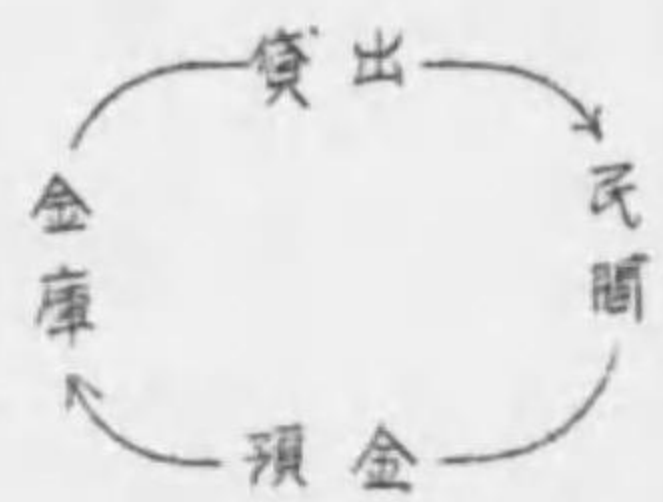
或ル発行者ノ財政ガ紊乱スレバ価格ガ下落スル。国家ガ之ヲ発行スレバ、其ノ信用ハ他ノ発行者ニ比スレバ極メテ大ナリト云ヒ得ル。貨幣価値ノ維持即チ各人が其ノ価値ニ信頼シテ授受スルコトが出来ル。(之モ理由ノ一ツデアル。)

例ヘバ、歐洲大戦中ニ発行スル紙幣ハ、其ノ発行ハ政府ニ依ルベキカ、銀行ニ依ルガ良イカ、問題トナツタ。普通ナレバ、銀行ノ方が良イト云フ人がアル。即チ、政府ナレバ、財政ト発行トノ必要ガアル。即チ紙幣増発

ノ恐レガアル故ニ、普通ハ中央銀行ノ方が良イ。経済的機能ヨリシテモ、経済事情ニ應ジテ紙幣ガ出入スル故ニ、銀行殊ニ信用絶大ナル中央銀行ガ良イトスル。例ヘバ日本銀行ノ如シ。

註

銀行



経済事情ニ應ズ

政府ノ場合ハ官吏ノ俸給、專賣事業、造営、戦備費、戦役費ノ金ノタメ紙幣ヲ出ス。

戦争、人心動搖、経済界動搖ノ際ニハ流通ノ円滑ヲ期スル為メ信用維持ト云フ他ノ理由カラ政府ガ発行スル。英吉利ノ *currency note* (ロイド・ジョーダ)ハ信用維持ノタメ、又日本ノ拾銭紙幣、五拾銭紙幣ハ政府発行デアル。信用維持ト云フ点カラ政府(国家)ガ統一的一ニ発行スル方が良イ。

(iii) 通貨政策ノ上カラ国家ガ統一シテ発行スル方が良イ。

何故ナレバ、國家即チ政府が統一シナケレバ貨幣制度ノ上デ支障スル、
 例ヘバ、インフレーションヲ断行シヨウトスル場合ニ因ル。方々デ発行ス
 レバ、一方ハインフレーションヲ行ヒ、他方ハディフレーションヲ行フ様
 デハ至難デアル、政府が独占スレバ、通貨膨脹モ、通貨收縮モ行ヘル、之
 ハ現在デハ其ノ *Control* ノカハ紙幣ノ存在ノ為メニ弱マツテキル、日本
 銀行デモ、ソノ発行ハ政府が *control* シテキル、即チ、通貨政策上ノ便
 宜ノ為メデアル、
 以上ノ如キ理由デ、政府が之ヲ統一シ、統一セル貨幣ノ発行ヲナシテ居ル、

○ 統一貨幣

統一アル貨幣トハ何カ、如何ナル意味デ統一サレテキルト云ヘルカ、即チ
 先ヅ、(i) 空間的場所的統一、(ii) 時間的統一が考ヘラレル、

(i) 空間的統一

一貨幣制度内ニ於テハ、總テノ貨幣ノ間ニ完全ナル代替性ガアル、即チ

一ツノ貨幣制度ノ内部デハ、其ノ中ニ於テ、種々ノ金額ノ貨幣ガ発行サ
 レ、種々ノ貨幣素材ノ貨幣ガ発行サレテ居ルガ代替性ガアル、一〇円ハ拾
 円金貨デモヨシ、五拾錢銀貨二十枚デモヨシ、拾錢ニツケル貨幣百枚デモ
 良ク、ソノ間ニ完全ナル代替性ガアル、支那ノ銀ト銅トハ此ノ統一ナシ、

(ii) 時間的統一

之ハ「価値」ニ於テモ説述スルガ、現在ノ貨幣価値ハ決シテ今日ニ於テ
 突然ニ成立シタモノデハナク、其ノ価値ハ漸次以前ノ貨幣価値ニ関聯ヲモ
 ツ、今日貨幣ノ有ツ購買力ハ、昨日ノ購買力ノ連続デアリ、昨日ノ購買力
 ハ一昨日ノ購買力ニ連続ヲ有ツト云フ様ニ、貨幣ノ価値ハ其ノ成立シタ時
 ニ連絡ヲ有スル、貨幣ノ価値ノ連続性又ハ歴史性ト名付ケルコトノ出表ル
 モノデ、貨幣ガ時代的ニ、時ノ流レニ沿ウテ衆ノ統一ガナサレテ居ルト云
 ヘル、

横ノ連絡ヲトルト、ソノ間ニ横断的、場所的連絡ガアリ、一定ノ比デ交
 換サレル、

○信用貨幣

現在貨幣ハ一ツノ統一的ナ一體トシテ纏ツク体系 (System) トシテ存在シテキル。然シ乍ラ斯クノ如ク発行サレ、統一サレタ貨幣ハ主トシテ金屬ニ因シテ論述シタガ、經濟ノ発達ニ伴ヒ、漸次統一アル金屬貨幣が姿ヲ消シ、之ニ代ルノニ信用貨幣が現レテ来タノデアル。即チ鑄造貨幣カラ紙幣ニ代ル様ニナツタ。

紙幣

大キナ金額ヲ表示スル鑄造貨幣ハ漸次、紙幣 (政府紙幣又ハ銀行券) ニ代位サレル様ニナツタノデアル。

預金通貨

又、更ニ金額ノ大ナルモノハ小切手 (Check) ヲ以テ、即チ預金通貨ヲ以テ之ニ代位セシメル。然シ、當座預金自体が物ヲ購買スルノデアル。

斯クノ如クシテ現代ハ金屬貨幣 (鑄造貨幣) が信用貨幣ニ代位サレル時代デアル。一方少額ノ取引ナレバ鑄造貨幣ヲ用ヒ、ソレ以上ハ紙幣ヲ用ヒ、更ニ其レ以上ハ預金通貨ヲ用ヒル。

○結論

斯クシテ貨幣制度ノ発展 (其ノ発生ヨリ今日迄) ヲ見ルト、一定ノ方向ヲ示シテキルト云ヘル。即チ貨幣素材カラ分離シテ行クト云フ傾向カアル。即チ証券化又ハ抽象化サレルト云ヘル。

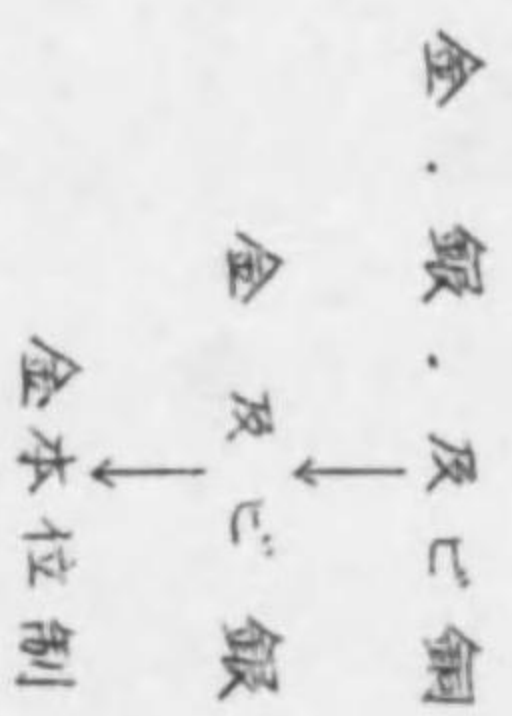


貨幣ト素材価値トノ分離が、貨幣発展ノ傾向デアル。今後ノ貨幣ハ抽象化サレル道ヲ辿ルデアラウ。

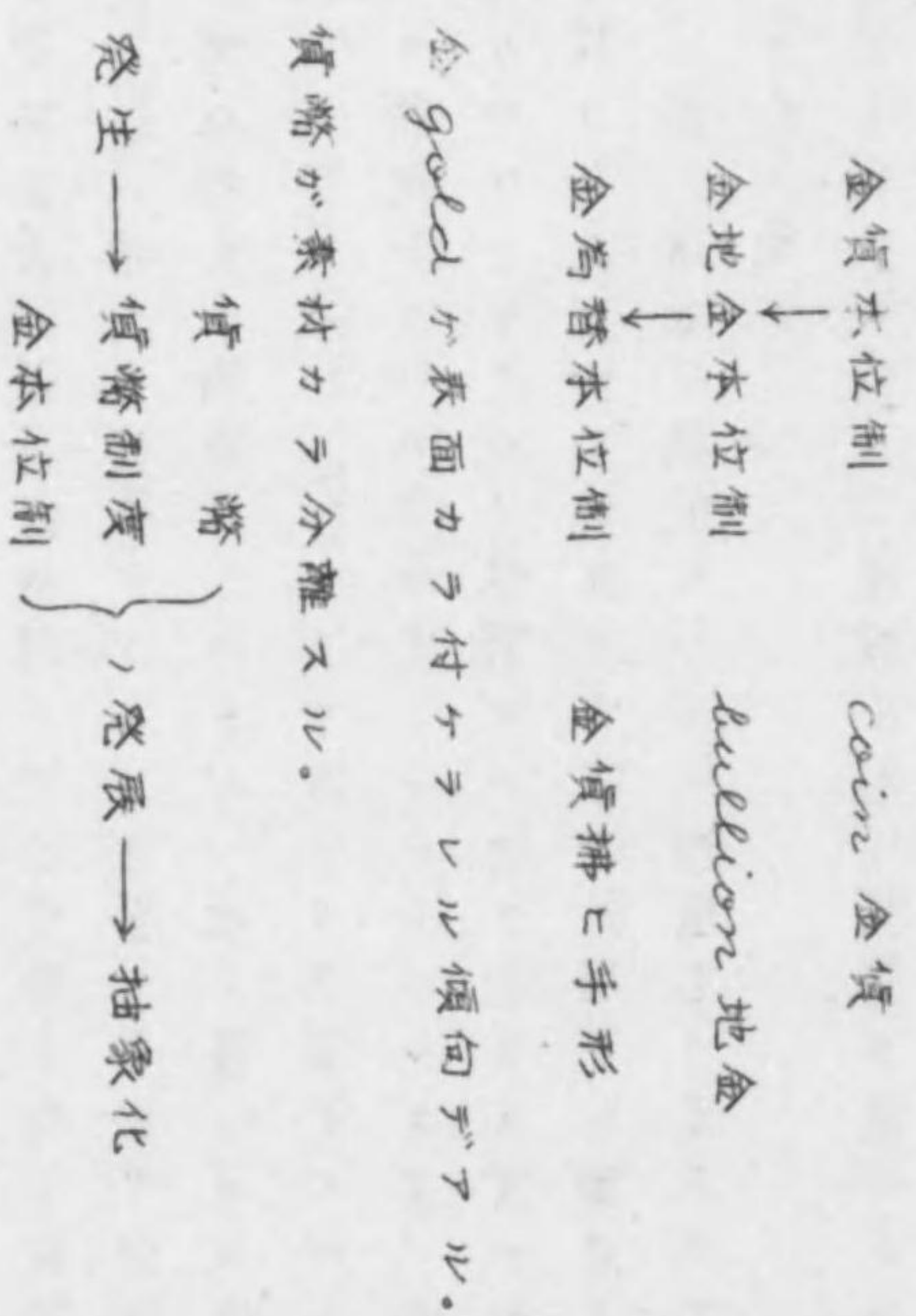
○ 貨幣制度全体ノ發展

金屬が少クナツテ行ツテ金本位制トナル

monetary system
貨幣制度ノ基礎 → 本位制 (standard system)



金本位制ノ中ニ於テ一ツノ方向が示サレテナル。其ノ中カラ金 (gold) が漸次後退シ、金ハ將ニ無クナラントシテキルノが今日ノ状態デアル (金一金本位制度ノ分離ノ傾向が其レデアル)。金貨本位制 (現在ノ日本及ビ歐洲大戰前ノ英國デアル。)



第三篇 貨幣ノ職能

第一章 職能ノ種類

現在ノ資本主義的經濟組織内ニ於テ貨幣ノ為ス職能(又ハ機能 *Funktion*, *function*)ハ種メテ複雑デアル。貨幣ノ發生ヲ説述スル際述ベタ如ク、第一ニ交換ノ媒介物タル職能ノミナラズ、他ノ種々ナル職能ヲツクス。其知デ、貨幣ガ如何ナル本質 (*Nature*) ヲ有ツカラ決定スルニハ、何カ貨幣ノ本源的(根本的)ノ職能デアルカヲ決定シナケレバナラヌ。處ガ現在ノ如ク種々ナル職能ガ相寄ツテマルチコロノ状態デハ之ヲ見出ス事ガ困難デアルカラ、漸次之ヲ分析シ、其ノ發生ニ於テ成生シタトキ如何ナル職能ヲ有シタカ(純粹ナ形ニ於テ)漸次、其ノ後他ノ職能ガソレニ附隨シテ生ジタカヲ省ネバ貨幣ノ真ノ姿ハ見出し得ナイト思フ。

今、貨幣ノ發生ニ遡リ、純粹ナ形ノ貨幣ヲ見ルト先述ノ如ク、云フ迄モナク交換ノ媒介ヲナシテマルチコロト云フ即チ交換ノ中ニ貨幣ノ最初ノ姿ヲ見出サネバラマト思フ。

從ツテ、此ノ作用ガ貨幣ノ所謂典型的ナ、本質的ノ職能デアツテ此ノ職能カラ、他ノ種々ノ職能ガ附加サレテ行ツタノデアアル。

從ツテ、貨幣ノ職能ハニツチ區別セネバナラヌ。
其ノ一ハ、貨幣ノ本源的職能 (*Ursprüngliche Funktion des Geldes*, *original function of money*) デ、其ノ二ハ貨幣ノ派生的職能 (*Ableitete Funktion des Geldes*, *derivative function of money*) デアル。

第一節 本源的職能

貨幣ノ本質ヲ決定スルモノハ、貨幣ノ本源的職能デアアル。然ラバ、貨幣ノ本源的職能ハ何デアルカ、今、發生ニ遡ツテ考察スルニ、單純ナル交換社会デ貨幣ガ(商品ノモツ流通性ノ差異ニ依リ)發生シタモノデアルト云フ事カラシテ、

貨幣が交換ノ媒介物 (Tauschmittel) ナル事ハ疑ヒナイ所デアル。
即チ、交換ノ一般の媒介物デアルト云フ事が貨幣ノ真ノ職能デアツテ、之が
貨幣デアるか否カラ決定スルモノデアアル。此ノ職能ヲ盡スナラバ、金屬又ハ紙
(紙幣)デアラウトモ実價ヲ変ヘナイ。之ハ如何ナル種類ノ貨幣モ盡サネバナ
ラヌ。今茲ニ問題トナルハ金貨デアアル。

註、紙幣ニ就イテ、或人ハ貨幣ノ代用物ト云フが、其レハ理由カナイ。紙幣
モ金屬貨幣モ同ジ職能ヲ盡スモノデアアル。兌換紙幣ナレバ金貨ノ代用物ト
考ヘラレルが、不換紙幣ナレバ(即チ兌換が行ハレナイナラバ)本末其レ
が貨幣即チ交換媒介物デアアル。

金貨ハ現實ノ流通ヲ有タヌ。金貨ハ貨幣デアリ下ラ流通場裡ニ出ズ。一般の
交換手段タル職能ヲ缺ク故ニ、貨幣ニ非ズト考ヘ得ル。然シ之ハ誤謬デアアル。
金貨ハ交換媒介物トシテノ職能ハ充分ニ盡シ得ル。即チ貨幣ノ職能ノ中デ第一
ノ本源的ノ職能ハ充分盡シ得ル。
金貨ハ此第一職能ハ自分自身デ尽サズニ、貨幣ト云ハレルモノナレバ、此ノ

職能ハ盡シ得ルカラ、他ノ種類ノ貨幣ニ此ノ職能ヲ任シテ金貨デナケレバ盡シ
得ザル也、職能即チ救済的ノ職能ヲ盡シテヤル。

例ヘバ、兌換準備(兌換紙幣發行ノタメノ準備)信用制度ノ基礎ハ金貨デナ
ケレバ為リ得ヌカラ、此ノ方面、職能ヲ金貨ガ為シテヤル。

此ノ故ニ、金貨ニ貨幣ノ本源的職能ナル交換媒介ナル職能ヲ尽サザル故ニ貨
幣ニ非ズトハ云ヘナイ。

交換媒介物ト云フ職能ガ本源的職能ナリト論述シタガ、人ニ依ツテハ、此ノ
職能ヲ貨幣ノ第一ノ本源的職能ト云ハヌ人がアル。

例ヘバ、Baughlin ハ「価値ノ共通ナル表示者又ハ標準 (Common
denominator of value or standard) が貨幣ノ本源的ナル職能
ナリト云フ。

獨逸ノ Knies (歴史学派ニ属シ、原論ト貨幣論ヲ書ク)ハ貨幣ノ本源的職能
ハ価値ノ尺度 (Wertmesser) デアルト述ブ。

又、獨逸ノ F. Knapp ハ貨幣ノ本源的ナル職能ハ支払手段 (Zahlungsmittel) デアルト
説イテ居ル。總テノ票券的ナ (Chartales) 支払手段ハ貨幣

第二節 貨幣ノ派生的職能

然シ、之等ノ人々ノ云フ職能ハ第一ノ交換媒介ト云フ職能カラ引出サレル附隨的ノ職能デアツテ、派生的ナ (*Abgeleitete*) ナ職能ト云ハネバナラヌ。

I 價値ノ共通ナル表示者或ヒハ標準

例ハバ、*Laughlin* ハ次ノ如ク述ベテキル。

「交換ノ行ハルル場合、先ヅ其ノ前ニ次ノ如キ問題が解決サレネバナラヌ。如何ナル割合ヲ以テ交換サルベキデアルカト云フ事、評價過程 (*process of valuation*) ト云フモノハ、物々交換ノ状態ニ於テサ、經過セネバナラヌモノデ、一ツノ財價ノ價値ヲ或ル承認サレタ標準 (*accepted standard*) ニ依ツテ表示スル (*indicate or denominate*) スル事ノ必要ナルハ明白デアアル。此ノ標準ト云フ觀念ハ社会ノ最初ノ記録ニ既ニ現レタニ相違ナイ。従ッ

テ理論的ニ之ヲ見ルナラバ「標準トシテノ貨幣」ノ使用ガ「交換媒介ノ貨幣」ヨリ先行セネバナラヌト結論シテ居ル。

交換スル前ニ先ヅ評價過程デアリ、ソレニ先ヅ貨幣が用ヒラレル。ソシテ更ニ *K. Menger* ハ貨幣ノ第一義ハ交換ノ媒介物ニアルトシ、*Laughlin* ノ考ヘテ以テ本末顛倒 (*to put the cart before the horse*) ト云ツテ居ル。

○ *Laughlin* ノ説ニ対スル批評

Laughlin ノ以上ノ考ヘガ正シイカ否カト云フ問題ニナルガ、成程吾々が交換ニ入ル場合、財價ニ就イテ一定ノ評價ヲスルガ、然シ之ハ何等貨幣ト云フ様ナカ然クトモ為シ得ルノデアアル。貨幣無ケレバ出来ヌト云フモノデナク、財價自体トシテ各、價値ノ成立ヲ為スモノデアアル。唯、現在デハ其ノ評價が貨幣價格ヲ以テ表示サレテキルノハ、貨幣が交換ノ媒介物デアツテ、之ニ対シテ常ニ賣買サレルカラ、之デ價値ヲ表示スル事が便利デアルカラ生ジタノデアアル。元来貨幣ヲ以テ財價ノ價値測定ノ用具ナリト云フ考ヘ方ハ古クカラ経済学デ考ヘラレタガ、其ノ發生シタ原因ハ、當時ノ交換ト云フ事ニ対スル解釈カラ生

ジタモノデ、此点デ根本的ナ相違ガアルト云ヘル。
抑々彼等ノ交換行為ニ対スル解款ハ交換ノ物件中ニ含まレル価値量ヲ測定
(Measuring) スル事デアルト考ヘテ居タ。交換當事者ノ固ニ於ケル取引ハ相
等シイ価値ヲ有スル財貨ガ取引サレル、其ノ価値決定ハ、一方ノ財貨ノ価値ヲ
他ノ財貨ニ依リ測定スル事ニアルト考ヘテ居タノデアアル。

然シ、財貨ノ価値ハ決シテ他ノ財貨ノ力ヲ俟ツ迄モ無ク、即チ他ノ財貨ニ依
ツテ測ラレル迄モ無ク財貨自体トシテ既ニ一定ノ価値ヲ有ツ訣デアアル。之ハ価
値論ニナルガ、即チ或ル一ツノ商品ガ価値ハ主觀的価値ノ初用即チ人間トノ関
係及ビ客觀的価値ノ有ツガ、此ノ場合、兩者ノ価値ガ各獨立ニ存在スルナラ
バ貨幣ナクトモ其処ニ兩者ノ交換ハ當然行ハレル事ハ出来ル。貨幣ナケレバ其
ノ価値ハ分ラヌト云フ訣デモ無ク、貨幣ナクシテモ客觀的価値ヲ有ツノデアアル。
兩財貨ノ交換ハ、貨幣ニ依ル価値ノ表示ナクトモ、既ニソレ自身与ヘラレタ価
値ヲ有ツカラ交換ハ行ハレル。

従ツテ此ノ意味ニ於テハ交換ニ際シテ価値ヲ表示スルト云フ事ハ第二義的デ
アル。「交換ナルコトガ第一義デ、此ノ価値ノ表示ハ貨幣ヲ俟ツコトハ無イ。

此ノ意味デ貨幣ノ第一職能ヲ価値ノ表示手段ト云フナラバ、之ハ誤謬ナリト
言ハネバナラヌ。

寧口此ノ交換ニ際シテ之ヲ簡單ナラシムル手段トシテ貨幣ガ用ヒラレテ居ル
カラ、其処デ表示ノ手段トシテモ豫メ貨幣ヲ以テ表示シタ方が交換ニヨリ便宜
タラシムル第二義的ニ生ジタ職能ト云ハネバナラヌト思フ。此ノ意味ニ於テ考
ヘルナラバ、貨幣ハ価値ノ標準即チ評價手段ト云ツテモ商品ノ有ツ一定量ノ客
觀価値ヲ其レニ表ハス手段デアルト云ハネバナラヌ。

Walker

以上ハ米國ノ Walker が「貨幣ハ交換ノ公分母ナリ」ト云フガ、之ハ正シ
イト思フ。

Kries

彼ハ凡ソ物ノ量ヲ計ルノニハ其ノ物ト同様ナル量ヲ以テシナケレバ測定ハ出
来ヌ。即チ測定セラルベキモノニ用シテハ之ト同種ノ測定ノ道具ト云フモノヲ

以テシテ、其レノドレダケニ當ルカニ依リ之ヲ測ルモノデアル。従ツテ經濟價
値ヲ測ル場合ニハ、又其ノ測ル標準其レ自体カ価値ヲ有ソモノデナケレバ此ノ
職能ヲ為シ得ヌ。

○ 貨幣価値ノ不安定

ソコデ貨幣ニ於テハ吾マハ貨幣ヲ以テ一ツノ商品カ十円トカ五円トカ云フ場
合、円ト云フモノヲ価値ノ單位 (Unit - value) ト考ヘ、円ノ有ソ価値・購
買力ヲ以テ標準トシテ之ト商品ヘノ価値トナリ対立させ、商品ノ価値ノ中ニ円
ノ有ソ価値カ幾ツ存在スルカニ依リテ此ノ商品ノ価値ヲ表ハスモノデアルト云
フ様ニ解釈シテキル。(Notes)

然シ若シ、ソウ云フ風ニ云フナラバ貨幣カ価値ノ尺度ナル事ハ極メテ不完全
ト云ハネバナラス。価値ノ標準ナラバ、其ノ標準ハ一定不変ノモノデナケレバ
ナラス。物指ヲ以テ物ヲ測ルノニ、物指ハ一定ノ長サデ伸縮ハナイ。今、長サ
重サノ單位カ動ケバ其ノ物ハ標準タリ得ズシテ不完全ナモノトナル。貨幣ハ此
ノ意味デ価値尺度トシテハ極メテ不完全ト云ハネバナラス。此ノ事ハ貨幣關係

ノ場合極メテ明白デアル。一人ガ千円借リレバ數年経テ千円ヲ返済スルトイフ
事ハ(利子ノ有無ハ措クトシテ)、茲ニ債務ノ精算が出来ルガ、法律的ニ見レ
バ、ソレデ相等シイモノガ返サレタガ、経済的ニハ等シイモノガ返サレタト云
ヘヌ。借リタ千円ト返済スル千円トハ物價カ上騰セシコトヲ考ヘレバ、後ノ千
円ノ有ソ価値即チ購買力ハ物價騰貴ノ限度ニ從ツテ下落シテ居ル。此ノ意味ニ
於テハ正シク価値ノ標準デハナク、唯名義上、然ルノミデアル。
貨幣価値ノ変動ハ常ニ起ルノデ、之ヲ動搖シナイト主張スル學說ハナイ。貨
幣カ価値ノ標準タルコトハ極メテ不完全タルヲ云ハネバナライ。
即チ、現金取引ト云フ場合ハ良イガ、信用取引ノ場合ニハ不合理ナ事カ行ハ
レテ来ルワケデアル。従ツテ価値ノ標準トシテハ貨幣ハ不適當ナリトシ、種々
ナ提案ガ試行サレテキル。即チ貨幣ヨリモヨリ、以上価値ノ一定不変ノモノガア
ル。

○ 価値ノ標準タルベキ財貨ノ諸問題

John Locke

彼ハ小麦が不変ナル尺度 (Standing measure) デアルト云フ事ハ、小麦ハ常 = demand = 比例シ、同一ノ量が存在スルコトデアル。之ニ対シテ貨幣ハ總テノ他ノ財貨ト同様ニ価値ノ種々ノ変化ヲナスモノデアルト云ヒ、小麦ヲ以テ価値安定セルモノト考ヘタ、從ツテ此ノ長期ニ添ル財貨ノ価値変化ヲ知ラウトスレバ、小麦ヲ以テ其ノ測定ノ手段トスルノが適當デアルト述ベテナル。例ヘバ地代ヲ測ルタメニ小麦ハ最も適當シテ居ルト云フ。

Adam Smith

之ト同様ナ事ハ Adam Smith = 就イテモ云ハレテ居ルコトデアル。即チ穀物地代ノ真価値ハ貨幣地代ヨリモ長年月ニ於テハ極メテ少イモノデアル。但シ年々ノ短イ期間ヲトレバ一層大キナ変動ハスル。 (Wealth of Nations, Common 版)

Genons

其ノ外、同様ナ事ハジエヴオンスデアル。彼ハ例ヘバ或ル種類ノ財貨、其

レハ穀物ト小麦ダト云フが、其レハ長期ニ添ル場合、例ヘバ十年、二十年ニ添ツテノ価値ノ変動ヲ見ルト、其ノ変動ハ他ノ財貨ノ場合ヨリ少イノデアル。斯カル財貨ハ短期間ニハ他財貨ヨリ大ナル変化ヲ見ルノデアル。然ルニ他ノ財貨例ヘバ金 (Genons) ノ金貨ノ如キハ長期間ニハ穀物ヨリ価値ノ変動ハ大デアル。短期間ニハ穀物ニ於ケル程大デハナイ。

實際ノ取引デハ何レが良イノカ、絶対的ナ標準ハ存シナイ。此ノ場合ニ何レが良イカナ決定スルカハ、實際ノ取引が如何ナル状態ニアルカニ依ル。拾年ト云フ様ナ長期ノ不動産取引ヲ除ケバ大部分ハ短期間デアル。現金、月末、半月、半年、一年ノ如キ短期間ニ於テ価値ノ変動ノ少イ方が實際ノ商取引デハ適當デアル。価値変動が短期ニ大デ、長期間ニ少イモノハ不便デアル。

Ricardo

彼ハ、嚴格ニ云ヘバ永久不変ノ価値尺度ハ存在シナイ。元来価値ノ尺度ハ其自体ニ於テ不変デナケレバナラヌ。然シ其レハ金ニ於テモ銀ニ於テモ望ム事ハ出来ヌモノデアル。何トナレバ之等ノモノハ他ノ財貨ト同様ニ変動スルモノデ

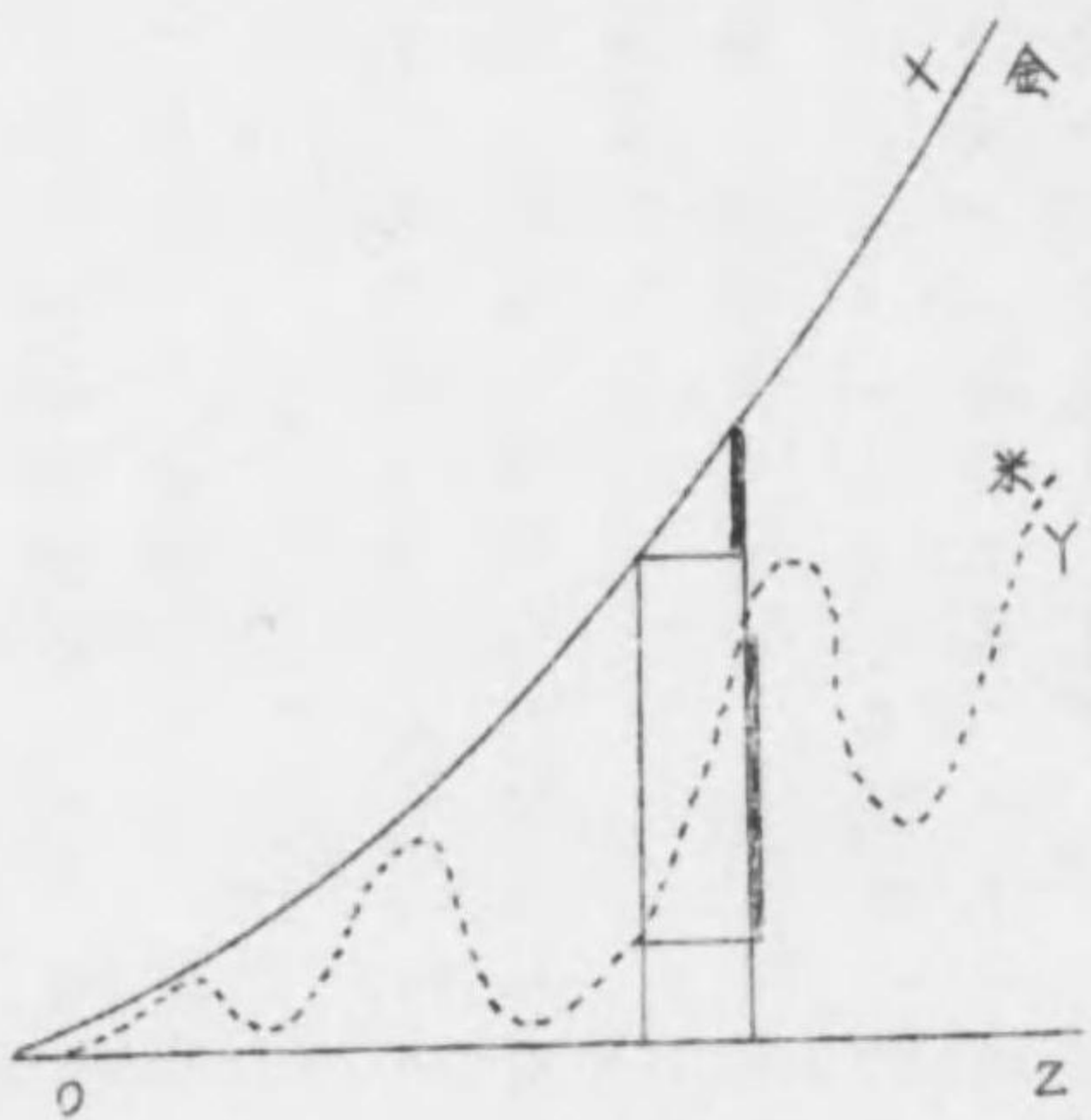
アルカラ。

然シ、経験が吾々ニ教ヘル所ニ依レバ、金及ビ銀ノ価値ノ変動ハ長期間ニトツテ考ヘルト相当ニ大キナ変化ガアルモ、短期間ヲトルト金銀ノ価値変化ハ可成リ安定シテキルト云ヘル。

然ウシテ他ノ種々ナル長所ガアルガ、此ニ特定コソ他ノ財貨ヨリモ金及銀ガ他ノ貨幣トシテノ用途ニ適シテキルトイフヘ金属学派的思想デアアル。

少額ノ前商所 → 高率ノ前商所 → 低率ノ商所

斯クノ如ク見レバ、日常吾々ノ取引ハ短期間ナレバ、長期間ノ価値安定ヨリ短期間ノ安定が必要デアアル。

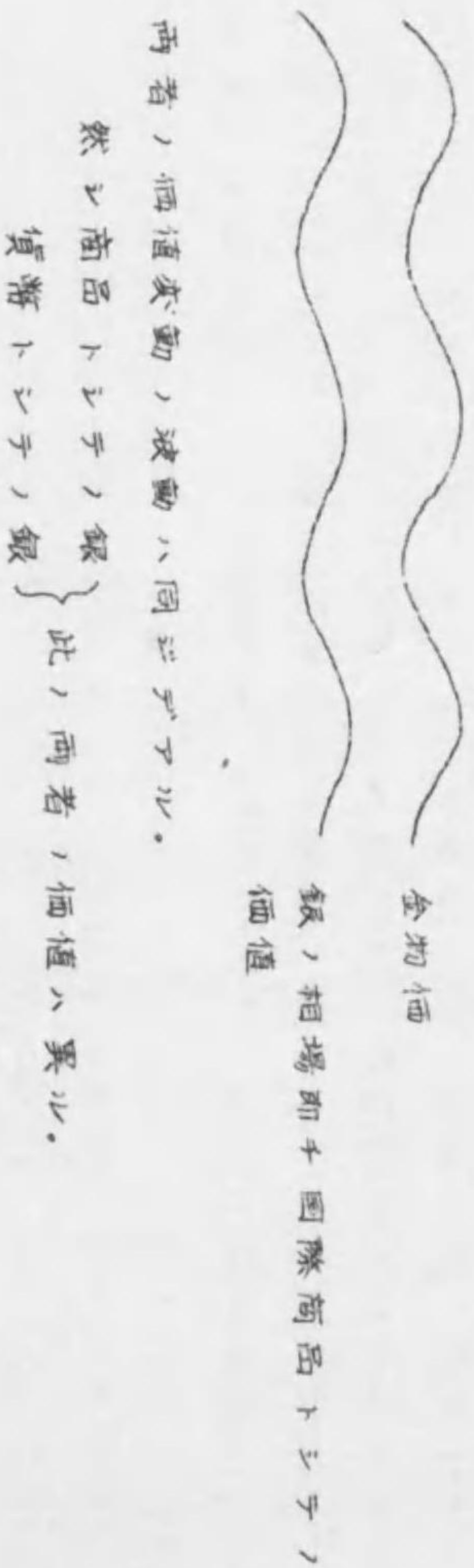


OX, OY ハ 価値変化ノ状態ヲ示ス

OZ ハ 期間ヲ表ハス。

全体的ニハ米ノ価値変動ハ長期間デハ金ノ価値変動ヨリ安定シテ居ルガ、短期間デハ逆デアアル。

其ノ外色々ナ提案ガアル。Labour Standard, 或ハ限界効用 (Marginal utility) 或ハ金及ビ労働量ノ併合 (Association of gold and labour standard) 又最近デハ銀が良イト云フ人ガアルガ之ハ正シクナイ。即チ云フ所ニヨレバ、金物価ト銀ノ相場ノ値ハ同ジデアアル。



結局、短期間ニ於テ動搖シナイ方が良ク、貨幣ヲ以テ価値ノ標準トスル。(短期間ニ於テ、不完全作ラモ他財貨ニ比シテ相對的ニ価値變動が少イト云フ意味ニ於テ)

価値ノ標準タル職能ハ交換媒介物ト云フ本源の職能カラ出テ決シテ本源の職能トハ云ヘヌ。今コノ交換媒介物タル職能ヲ果ダシテ居ルナラバ、不完全作ラ価値尺度タル職能ヲ盡シテナルモノト言ハネバナラヌ。

貨幣ヲ以テ商品ノ價值ヲ表示 (indicate) スル手段ト云フ意味ニ解サネバナラヌ (Messuring) デナクテ表示デアル。決シテ測定標準トハ云ヘヌ。

○「共通ナル表示者」ノ意味

然シ茲デ又問題トナルノハ「共通ナル表示者 (Common denominator)」ノ意味デアル。

此ノ場合、商品ト貨幣トノ間ノ等価關係ト云フ場合、其ノ關係ハ如何ナル表示ノ仕方デアルカ。

例ヘバ、此ノ帽子チ十円デ買フノハ、貨幣ヲ以テ一ツノ尺度トシテ帽子ノ価値ヲ表示シタモノデアル。之ハニツノ意味ニ解スル事ガ出来ル。

(i) 帽子一個ノ有スル価値ハ、貨幣ノ一定量即チ十円ト云フモノガ全体トシテ、有スル価値ニ等シイコトヲ意味スルノカ。

(ii) 帽子一個ノ価値が貨幣一円ト云フ円ナル單位ノ有スル価値ノ十倍ニ等シイ事ヲ意味スルノカ。

之ハニツノ全ク内容ノ異ツタ解釈ガ生レルト思フ。

○ 経済学ニ於ケル価値

元來経済学ニ於テ取扱フ価値ハ 目的ニ対スル手段ニ於ケル概念デアル。即チ作用価値 (Wirkungswert) テ固有価値ニ関スルモノデハナイ。總テノ財貨ニ対スル評価ハ我々ノ生活目的ニ対スル福祉目的ニ対シテナス。即チ幸福ヲ齎スト云フ評價ノ反映デアルト為スコトガ出来ル。此ノ意味ニ於テ経済学ニ於ケル価値ハ色々ノ財貨ヲ所有セントスル経済ヲ営ム人間 (Homo oeconomicus) が個々ノ財貨ニ帰スル重要性デアルト言ヒ得ル。

価値ノ本質が我々ノ財貨ノ一定量ニ対スル重要性トスレバ、其レハ結局其ノ財貨が如何ナル程度ニ於テ吾々ノ幸福ニ対シテ関係ヲ有ツカト云フ重要性デアル。例ヘバ一定量ノ米、一頭ノ牛、十個ノ柿ト云フ様ナ財貨ノ重要性ハ、結局其ノ所有者ニ対シテ有スル主観的価値ヲ意味スル。其等ノ財貨ノ一定量ノ価値ハ常ニ其レノ與ヘル享樂ニ依ラネバナラヌト思フ。

○ 感情度ノ測定

主観的価値学説ニ於テ、吾々ノ感情ノ大キサ *Gefühlungsgrößen* が測定シ得ルカト云フ問題が惹起サレル。吾々ノ欲望ヲ充足スルカニ依リ価値ヲ測定セントスル。大ナル欲望ヲ充足スルカアル財貨ノ価値ハ大デアリ。又ソノ逆モ言ヒ得ル。

前述ノ *genaus* ハ「心ノ感じハ之ヲ秤量シ検査スル事ハ出来ヌ。又、苦痛、苦痛、享樂ヲ量ル單位ハ世ノ中ニハ存在シナイ。」ト述ベテ居ル。又「快樂、苦痛ノ單位ハ吾々ハ想像スル事ハ出来ヌ。感情ヲ数量的ニ云ヒ表ハス事ハ不可能デアツテ、感情度ノ測定ノ如キ自分ハ承認シ難イ。」ト著書 *Theory of Political Economy* デ論ジテ居ル。

其ノ外、獨逸ノ *Schellwien* ; *Neumann* モ測定不可能論者デアル。

Böhm - Bawerk ノ測定可能説

之ニ対シテ *Böhm - Bawerk* ハ之ニ反対シ、吾々ノ欲望が全ク測定シ得ナイトスレバ、總テノ経済ヲ営ムコトハ全然不可能トナル。何トナレバ一般ニ認めラレテ居ル経済原則ハ「最小ノ犠牲ヲ以テ最大ノ效果ヲ得ル。」トコトニ存スル

ガ、若シ何レノ效用ガ他ノ效用ヨリヨリ大デアリ、又小デアルカト云フ事
 或ヒハ一ツノ效用ガ其レヲ得ルタメニ費シタ犠牲ヨリモ大ナリマ否マガ判断シ
 得ナカッタナラバ、此ノ経済原則ハ存シ得ルカ。事實ニ於テ吾々ハ吾々ノ主観
 的感懐並ビニ慾望ヲ毎日々々相互ニ秤量シテ居ルモノデアアル。若シ此ノ快感（*pleasure*）ト苦痛（*pain*）ガ事實測定スル事ガ出来ヌナラバ、吾々ノ生活
 ハ忽チ混沌ニ陥ルト云フ。（之ハ前述ノ測定不可能論者ニ対スル可能論者ノ立
 場デアアル。）

若シ測定が出来ルナラバ、此ノ問題ハ次ノ問題ヲ生ム。

此ノ感懐ト他ノ感懐トノ間ノ関係ヲ数字的ニ決定シ得ルカ否カ。
 例ヘバ、吾々ハAト云フ快感ヲBト云フ快感ノ二倍ノ大キサ或ヒハ三倍ノ強
 サガアルト云フ様ナ事が云ヘルカ否カ。問題トナルノデアアル。
 前ノ講義ヲ要約スレバ、貨幣ガ価値ヲ表示スルトノ意味ハ何デアアルカ。十円
 ノ帽子ハ *elles gangen* トシテ十円カ將又一円ノ十倍ナリカ。
 又、財貨ノ価値ヲ表ハス時、価値ハ主観的価値ノ大キサノ標準即チ效用、慾
 望、感懐等ノ大キサニ依リテ測定スルト述ベタ（*Böhm-Bawerk*）。

Böhm-Bawerk ノ 説明

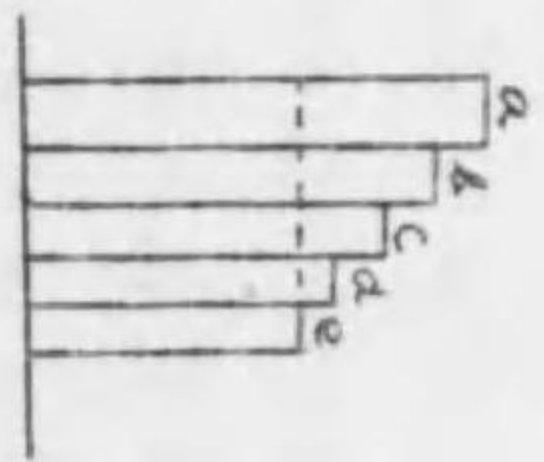
若シ、感懐度ガ測定出来ルトスレバ、其ノ表ハス方式ハ数量的ナ表現デアアル
 カ、換言スレバ、A財貨カラ享受スル快感ハ、B財貨ヨリ享受スル快感ノ三倍
 デアルト言ヒ得ルカ。

Böhm-Bawerk ハ例ヲ挙げテ次ノ如ク論ジテタル。

A Bナル二人ノ少氣ガアル。Aハ林檎ヲ、Bハ梅ヲ所持スルトスル。Bガ林
 檎ヲ欲スレバ、梅ヲ提供スル。Aハ梅ト林檎カラ享受スル欲望充足ノ程度ヲ比
 較シ、Bガ梅四ツ、五ツ、或ヒハ六ツト云フ様ナ場合ニ林檎ヲBニ与ヘルノ事
 拒絶スル。Bガセツデハト云ヘバAノ心ハ動揺スル。Bガハツト云ヘバAハ林
 檎ヲ共ヘルデアラウ。此ノ取引ニ於テ一個ノ林檎ヲ食ベル（消費スル）事ニ依
 リ享受スル效用ハ梅ノ消費ヨリ享受スル效用ノ七倍ヨリ大デアリ、八倍ヨリハ
 小デアルト云フ数学的判斷が存在スル。

Böhm-Bawerk ニ対スル *Cuhel* ノ 批評

彼ハ欲望学ヲ書キ、其ノ中デ此ノ Böhmノ判断ニ対シ「幾ツカノ小サナ享樂、效用ガ他ノ一個ノ享樂、效用ニ等シイト云フ事ト「一個ノ小ナル享樂、效用ノ何倍ガ他ノ一個ノ效用、享樂ニ等シイト云フ事ト同ジモノト考ヘタ誤謬ヲ犯シテキルト批評シテキル。彼ガ何個ノ小サナ享樂、效用ト云フ言葉ヲ何個ノ小サナ相等シイ大キサノ效用、享樂ノ總計 (total sum) デアルト見タノハ誤謬デアツテ、之ハ多クノ等シカラザル大キサノ享樂、效用ノ總計デアルト考ヘネバナラス。



$$A + B + C + D + E \dots \dots \dots \text{Gossens}$$

$$2 \times 5$$

或人が商品ヲ購ハントスル場合、一商品ニ対シ三十円デハ高価デアリ、二十
五円ニ値引シテ購ツタトスル。此ノ場合 Böhm-Baewerkノ見方ニ依レバ、此

ノ判断ニ存スル所ハ、其ノ商品ノ効用ヲ各一円ニ依ツテ享受サレル効用ニ比較シ、其ノ大キサニ於テ二十五倍ヨリハ大デ、三十倍ヨリハ小サイト云フ判断デア
ルニ違ギヌ。従ツテ一個ノ商品ガ三十円ニ価値スルト云フ事ハ、ソノ評価者
ニトツテハ該商品ノ與ヘル効用ガ、三十円ト云フモノノ與ヘル効用、享樂即チ
一円ノ與フル効用、享樂ノ三十倍デアルト解釈シテ居ル事ハ、林檎ト梅ノ級別
ヨリ然カク考ヘラレルノデアアル。然シ斯クノ如キ考ヘ方ハ適當デアラウカ、又
此ノ判断ガ可能ナリトスレバ、此ノ数字的計算ノ單位トナルモノガ必要トナル。
先ノ設例ニ於テハ一個ノ林檎ノ効用ヲ利ルノニ梅一個ノ與ヘル効用ヲ以テシテ
居ル。従ツテ此ノ意味デ梅一個ノ與ヘル効用、享樂ノ程度ハ測定ノ標準トナツ
テキル。ソシテ此ノ測定ノ單位タル商品ノ與ヘル享樂、效用、單位ハ一定デア
ル。八個ノ梅ガ一個ノ林檎ト交換サレタ場合ニ、此ノ八個ノ梅ノ與ヘル享樂ハ
一個ノ梅ノ與ヘル享樂、效用ノ八倍デアルト解釈シ得ルカ。
Böhm-Baewerkハ此ノ八個ノ梅ノ與ヘル効用ハ、一個ノ梅ノ與ヘル効用ノ
八倍デアルト解釈シタノデアアルガ、此ノA少年ガ八箇ノ梅ヲ順次ニ食バタト考
ヘルナラバ、此ノ各ノ梅カラ享受スル効用ハ相等シクナイ。效用、享樂ハ漸減

スル。ソコデ、何個カノ小サナ效用、享樂ノ總合デアルカト云フ事ト、又一個人ノ效用、享樂ノ何倍デアルカト云フ事トハ同一デナイ事ハ先ノ四デ明白デアル。今、Aヲ以テ小サナ享樂ノ單位ヲ表ハシ、Bヲ以テ他ノ比較的大ナル享樂ノ單位ヲ表示スルトスレバ

$$A + A + A + A = B \quad (1)$$

$$4A = B \quad (2)$$

(1), (2) ノ方程式ハ同シ事ヲ意味シナイ。

今、之ヲ梅ト林檎トデ代置スルナラバ

$$\text{梅} \times 4 = \text{林檎}$$

此ノ場合ニ一個ノ林檎ノ興ヘル效用ハ梅ハ個ノ興ヘル效用ニ等シイコトヲ意味スルモノデアツテ、林檎一個ノ興ヘル效用、享樂ハ梅一個ノ興ヘル效用ノ八倍ヲ意味シナイ。即チ之ハ、梅 $\times 4 =$ 林檎 $\times 1$ ト云フ式ヲ表現スルコトハ出来ヌ。即チ梅ハ個ト云フ事ト、梅一個ノ興ヘル效用ノ八倍ト云フ事ト、兩

者が共ニ成立スル為メハ次式ノ成立が必要デアル。

$$A + A - A - A = B = 4A$$

各個ノ單位ノ興ヘル享樂ノ總和が其ノ單位ノ何倍カゞ興ヘル效用ニ等シク、又同時ニ其レが他ノ一個ノ財貨ノ興ヘル效用ニ等シイト云フ時ニ限ル。然シ之ハ先述ノ法ニ效用遞減ノ法則 (Gossenノ法則 *law of diminishing utility*) ニ依リ成立シナイ。何トナレバ前掲ノ設例デ、林檎一個ハ梅ハ個ニ等シイト云フが、此ノ梅ノ各ノ有ツ享樂ハ異リ漸次遞減シテ居ル。最初ノ一個ノ梅ノ享樂ハ最大デ以下漸減スル。今Eヲ以テ林檎一個ノ興ヘル效用トシ、 $e_1, e_2, e_3, e_4, e_5, e_6, e_7, e_8$ ヲ以テ梅一個宛ノ興ヘル享樂ノ大キサナ順次表示スルナラバ

$$E = e_1 + e_2 + e_3 + \dots + e_8$$

$$\text{梅} > e_1 > e_2 > e_3 > \dots > e_7 > e_8$$

從ツテ此ノ点カラ云ヘバ林檎一個ノ效用が梅ハ個ノ效用ニ等シイト云フ場合

ニ梅一個ノ與ヘル效用ガ單位 (Einheit) トヤンテ測定シ得ルノデハナイ。(梅一個ノ有ツ價值ハ夫々異ルカラ)

此ノ意味カラ結論スルナラバ、梅一個、二個ト云フノハ何等其ノ内容タル效用(主觀的價值)ト關係ナキ單位デ、唯單ニ梅ノ數量ガ計算ノ單位デアツテ、此ノ場合ニ享樂ノ單位トハ為リ得ナイノデアル。

○ 經濟價值ノ解法ノ貨幣價值ヘノ適用

以上ハ一般的ニ價值ニ就イテ述ベタガ、同様ノ事ハ貨幣ニ就イテハ、既ニ八個ノ梅デアル。八個ノ梅ハ一個ノ林檎ニ等シイト云フ關係ニ就イテハ、既ニ八個ノ梅ガ全体トシテ与ヘル效用ト一個ノ林檎ノ效用トガ等シイト云フ意義ニ解法スベキモノトナツタノデアルガ、之ヲ現在ノ貨幣經濟 (Geldwirtschaft) ノ時代ニ當ハメルト交換行為ハ貨幣ノ仲介ニ依ツテ為サレ、一切ノ財貨ハ貨幣ニ對シテ交換サレ、各財貨ハ交換場裡デハ貨幣ノ一定量トシテ表示サレル。即チ價格 (Preis) ヲ有ツノデアル。

○ 價值表示ノ手段

茲ニ所謂價值表示手段 (Wertvorstellungsmittel) ノ職能ガ生ズル。例ヘバ梅八個ガ二十錢ト云フ貨幣價格ヲ有シ、林檎一個モ亦二十錢ト云フ貨幣價格ヲ有スル様ニナツタ、即チ表示手段ト云フコトガ先例ノ場合林檎一個ガ梅幾何ト云ツクガ、此ノ場合貨幣幾何ト云フ様ニナツタ。帽子ノ價格ヲ表示スルノニ拾円ナリトカ、洋服一揃百円ナリトカ云フガ、此ノ場合帽子一個ノ價值ヲ貨幣ヲ以テ測定出来スト云フ事ハ先述ノ如クデアル。帽子一個ノ價值ノ表示手段デアルコトハ云フ迄モナイ。(貨幣ハ價值ヲ測定スルモノデハナク、価値ヲ表示スルモノダ)

如何ナル關係デ貨幣ハ價值ノ表示手段デアルカ、一般價值ノ問題ヲ持テ来リ一般的ニ述ベル。(梅八個全体ガ梅一個ノ八倍デアルカノ問題デアル)

斯クノ如ク考ヘル場合ニ、一般價值ニ就イテ論ジタ事ガ妥當スル。一個ノ帽子ガ拾円デアルト云フノハ、一個ノ帽子ノ價值ガ十円全体トシテ有ツ価値ニ等

シート解散シナケレバナナイノデアル。其レハ丁度一個ノ林檎が八個ノ梅ニ等シート云フ場合ニ、八個ノ梅全体が有ツ価値ニ等シート解散シタト同様デア。一個ノ帽子ノ価値が一円ノ有ツ価値ノ十倍デアルトハ云ヒ得ナイ。之レ恰モ梅ト林檎ノ設例ニ於テ、八個ノ梅ノ與ヘル效用が一個ノ林檎ノ与ヘル效用ノ八倍ニ等シート云ヒ得ヌト孰チ一ニスルモノデアアル。

左右田博士ノ見解

博士ハ価値ハ価格トシテハ外面上、單位ノ複數トシテ表章セラルルガ、価値其ノモノハ一ツノ統一的ナ心理的ナ現象デアツテ、一ツノ物ヲ評価スルニ際シテ生ズルモノハ断ジテ数字的ニ分割シ得ナイ。ト述ベラレル。

然シ人間慾望ノ個々ニ数字的ニ表章セラルル価値ハ、価値單位ノ單ナル集積デハナイ。若シ數ニシテ主觀的、統一的ナル價值ノ客觀的ナル表章ト考ヘラレル場合ニハ、之ハ財貨ノ価値ニ相應スル記號トナル。更ニ例ヲトツテ或ル場所ニ於テ温度が八十度デアルトスル。此ノ客觀的ナ表章デアアル八十度ト云フ事ハ

唯單ニ「一度」ト云フモノノ八十倍ノ集積タルニ止ルモノデアアルガ、八十度ノ温度ハ一度ノ温度ノ連絡ナキ單純ナル集積デハナイ。此ノ場合、八十度ノ温度ハ不可分ノ物理的ナ現象デアルト考ヘネバナラヌ。価値ト云フ統一的、心理的現象モ同様ニ取扱ハネバナラヌト云フ事ヲ博士ハ主張シテ居ラレルガ、之ハ前述シタ所ト同様ニ見解デアラウト思ハレル。

帽子一個が拾円ト云フ場合、帽子一個ノ価値が一円ト云フ單位ノ有ツ価値ノ十倍ト云フ事ハ出来ズ、茲ニ言ヒ表ハサレル事ハ一個ノ帽子ノ価値ト、貨幣拾円ノ全体トシテ有ツ価値トノ直接のナ關係デアアル。

現実ノ場合ヲ考ヘルノニ店頭デ帽子ヲ購入スル際、其ノ價格が拾円デアアル場合、之ヲ一円ノ有ツ価値ノ十倍デアルト考ヘテ購買スルデアラウカ。拾円全体トシテ比較考量シテ購フノが通常デアアル。

故ニ貨幣が財貨ノ価値ノ表示手段デアルト云フナラバ、其ノ全体トシテノ価値ニ於テ表示セラルベキモノト云ハネバナラヌ。斯クノ如ク価値ノ概念ヲ解散スルナラバ、凡ソ正確ナル価値尺度ハ存在シ得ナクナル。貨幣ノ価値ハ個々ノ貨幣個片 (Geldstücke) ノ單ナル集積デアリ、貨幣ノ多數ト云フモノハ各片

ノ無関係ナル集積タルニ止リ、其レハ直チニ価値ノ數的ノ関係ト見ルコトハ出
来ナイノデアル。斯クノ如ク見ルト拾田ハ軍ナル一円ノ拾個ノ集積タルニ止ツ
テ、何等其レ以外ノモノ、デハナイト云フ事ニナル。

然シ乍ラ拾田全体トシテ有スル価値ハ統一的デアツテ、軍ナル集積ト考ヘル
事ハ出来ヌ。其ノ結果、円ト云フ單位ハ何等価値測定ノ標準タルモノト考ヘ得
ナイ、從ツテ之ハ梅トカ林檎トカニ於ケル個數、牛馬ノ頭數ト其ノ性質ニ於テ
何等異ル所ハナイ、貨幣ノ価値ノ單位トシテデハナク、貨幣ノ數量ノ單位トシ
テノミ解散セネバナラス。斯ク解散スル事ニ依リ「円」ト云フモノノ單位ノ意
義が明白トナル（円ハ価値單位デハナク、數量ノ計算單位デアアル。）

支拂手帳トシテノ職能

其ノ外ニ貨幣ノ職能トシテ重要ナノハ支払手帳タル職能トシテ、貨幣ノ本質
的職能 (*wesentlich Funktion*) ヲ考ヘルカアル。即チ一般的支拂手帳
(*allgemeine Zahlungsmittel*) トシテノ職能デアツテ、之ハ独乙ノ
Knappe が主張シタ。

Knappe の例、 *Staatliche Theorie des Geldes* 即チ貨幣國定説中
デ「貨幣ハ法制 (*rechtlich Ordnung*)、創造物ナリ。」ト述、テ居ル。貨幣
ハ歴史ノ経過ニ於テ種々ナ形式デア出現シテ居ル。貨幣理論ハ法制史的 (*Recht-
liche-geschichtlich*) ナノミ存シ得ル。之ハ名目學說 (*Nominalismus*)
デアアルガ、貨幣ノ職能ハ支払手帳デアルト云フ。

凡ソ貨幣ハ其レガ金屬 (*metale*) デアラウト、紙 (*paper*) デアラウト、其
レハ支拂手帳ノ一特殊ナル場合ニ過ギナイ。法制文ノ範圍内ニ於テ之ヲ見ル場
合、支拂手帳ノ概念ハ箇單ナ形式ニ始ツテ漸次複雑ナル種類ニ発達シタノデア
ル。「支拂手帳」ハ貨幣概念ノ從属スル上位概念 (*den Græne Begriff*) デ
アルト云フ。何トナレバ、貨幣ニ非ル支拂手帳が存在シ、更ニ後ニハ貨幣タル
支拂手帳が存在シ、又其ノ後ニハ最早貨幣タラザル支払手帳が存在スルト云フ。
之ハ例ヘバ貨幣ニ非ズ、支払手帳ハ金屬秤量時代（鑄造貨幣以前）デアアル。
貨幣タル支拂手帳トシテ預金通債ハ貨幣ニ入ルカ否カハ後述スル。

支拂手帳トハ何デアアルカト云フニ、支拂手帳が從属スル上位概念ガアルト考
ヘ Knappe は總テノ支拂手帳ハ交換財 (*Tauschgut*) デアルト説明スルノハ誤

誤ダト云フ。

交換財ニ非ル支払手段がアルト云ヒ、例ヘバ紙幣ハ支拂手段デアルガ、
(Knapp)ニ依レバ)交換財デハナイデアラウ。然シ又一切ノ交換財ハ支払手
段デアルトモ云ヘヌ。何トナレバ、支拂手段デナイ交換財が存在スル事ガアル。
例ヘバ自己ノ有ツ穀物ヲ相手方ノ有ツ銀ノ一定量ト交換スルトキ、此ノ交換當
事者両方ニトツテハ共ニ交換財デアル。然シ直チニ之ヲ以テ支払手段デアルト
ハ言ヘヌ。

然ルニ、一ツノ社会範圍、或ヒハ国家内デ或ル特定ノ財貨(例ヘバ銀ノ一定
量)ヲ總テノ財貨ガ交換サレルゴトヲ承認スレバ、銀ハ狭イ意味ノ交換財トナ
ル。之ヲ一般的ノ交換財 (Allgemeine Tauschgut)ト云フト Knappハ
述ベテ居ル。斯カル社会的ニ (gesellschaftlich)承認サレタ交換財ハ支拂
手段デアル。一切ノ支拂要具ハ社会的ニ承認サレタ交換財ナリト云ヘル。何ト
ナレバ一切ノ支拂要具ハ常ニ社会的ニ承認サレテ居ルモノデ、且ツ交換ニ役立
ツモノデアルガ、然シ常ニ財貨デアルカ否カハ別問題デアル。Knappハ紙幣
ガ此ノ例デアルト述ベテ居ル。

今、商品ヲ見ルニニツノ用法ガアル。

例ヘバ、金属ヲ技術的ニ裝飾品トシテ、或ヒハ器物トシテ用フレバ、其レヨ
リ其ノ金属ノ実價的 (reale)ノ満足 (Befriedigung)ヲ得ルノデアル。
之ニ対シテ今一ツノ用法ハ他ノ財貨ト交換スルガメニ用フレバ、流通的 (zirk-
ulation)ノ満足ヲ與ヘルノデアル。

然シ商品ノ所有者ハ此ノニツノ満足ヲ同時ニ得ラレヌ。何レカーヲ擇バネバ
ナラナイ。而シテ此ノニツノ商品ノ有ツ満足ノ中デ實價的満足ノ可能性ハ一財
貨ガ社会的ナル交換財タル地位ヲ取得スル必須條件デアル。

然シ、此ノ性質ハ財貨ヲ支拂手段タラシメルノニ充分デハナイ。支拂用具タ
ル性質ヲ具有スルガメニハ、先ヅ流通場裡ニ於ケル満足が無ケレバナラヌ。流
通的ノ充用性ハ法律生活ノ一現象デアツテ、既ニ金属秤量制ト云フモノハ、之
ハ支拂用具トシテ一ツノ法律上ノ組織ガ始ツタモノト云ヘル。然シ金属秤量
制ハ支拂用具ノ一例ニ過ギナイ。一ツノ財貨ガ其自身ノ物理的ノ性質ヲ承認シ
テ、其レガ交換財トシテ彼立ツ場合(ノ内容ヲ常ニ念頭ニ置イテ)之ヲ素材測
定制 (Knappノ *Anteillich*)ト云フ。

註 *Anthyplich*, *hyglicsch*, *hyge* ハ素ヲ意味スル。
 此ノ場合ニハ内容ヲ常ニ考ヘテ用フルカラ、実價的使用及ビ流通的使用ノ何レニモ用ヒ得ル。
 茲デ以テ支拂用具ノ定義ヲ下スナラバ、流通場裡ニ於テ用フルコトノ出来ル移動シ得ルモノデアル。
Knapp ハ更ニ其ノ著書ノ中ニ於テ支拂手段ヲ發生的ナ (*genetisch*) ナ見地カラ次ノ如ク分類シテキル。而テ之ハ歴史のナ見方ヲシテキルノデアル。
Knapp ノ書中第三十五頁ヲ見ヨ。

支拂要具 *Zahlungsmittel*

秤量的的		公布的的	
<i>pensatorisch</i>		<i>proklamatorisch</i>	
無定形的的 <i>Amorphisch</i>	定形的的 <i>Morphisch</i>	表券的 表材發生的的 <i>hylogemisch</i>	<i>Chartales</i> 自己發生的的 <i>autogemisch</i>
I	II	III	IV

註釋

發展的ニ見レバ、秤量的的 → 無定形的的 → 定形的的 → 公布的的 → 表券的

↓素材発生の ↓自己発生のへノ推移ガアル

I ハ金屬秤量制

II ハ鑄造貨幣ト云フ一定ノ形状ヲトル

III ハ内容ハアルカラ其レヲ同時ニ支拂手帳トスルト法律上定メラレル。

IV ハ紙幣ヲ考ヘヨ。実價が無クナリ。其ノ事自体が発生ノ原因ヲ有ツ様ニナル。

公布的トハ法律上ニ規定スルコトニ依リ一ツノ支拂手帳が出テ来ル。

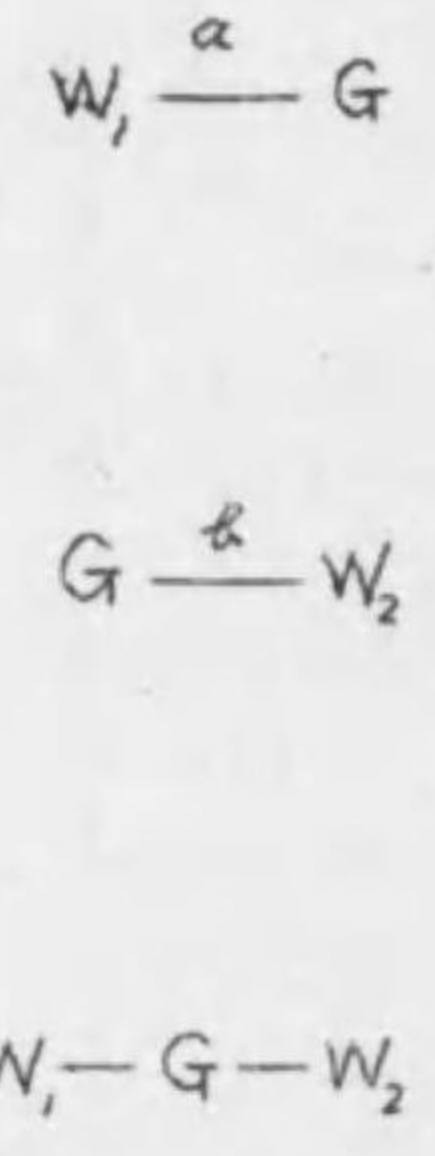
表卷的トハ実價的ナモノト分離スルノデアル。

ソコデ Knapps ノ貨幣ノ職能ニ對スル解釈ハ如何デアルカ。

「貨幣ノ第一ノ職能ヲ以テ支拂手帳デアアルトスル考ヘ方ハ法律的解釈デア
ルコトハ云フ迄モナイ。

然シ此ノ考ヘ方ハ交換ノ媒介物ナルコトト何等内容ヲ異ニシナイノデアル。
元来、交換ハ貨幣ヲ用ヒル事ニ依リニツノ部分ニ分レル。先ヅ商品ヲ貨幣ニ代

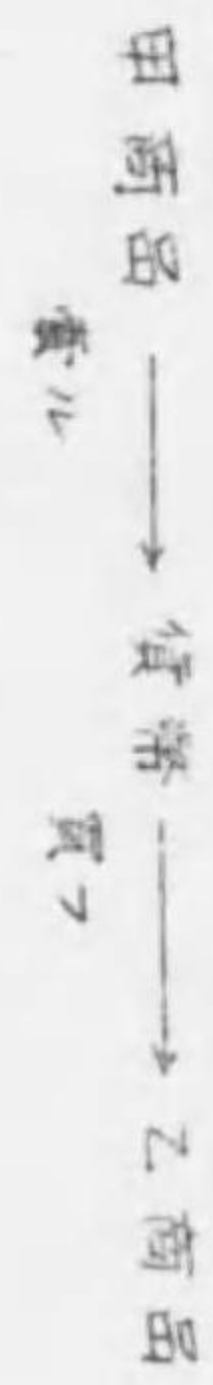
ハルト云フ事(賣ル selling)ト、次ニ貨幣ヲ以テ自己ノ好望スル商品ヲ買フ
行為 (buying)トニ分レル。交換ハ貨幣ヲ仲介トシテ賣及ビ買ナル外見上独
立ノタニ行為トナリ之ガ時間的ニ分離スル。



然シ乍ラ之等ノ行為ハ一ツノ法律的ナ解釈デアツテ、貨幣が經濟上交換媒介
物ヲ意味スルノハ此ノ行為ヲ意味スルモノト云ハネバナラヌ。従ツテ支拂手帳
トナル事ハ此ノ貨幣ガ二財貨ノ交換ノ中間財トシテ存在スルト云フ事ヲ法律的
ナ見方ヲシタモノデアルカラ、何ラ異色アル見解トハ云ヒ得ナイト思ハレル。
即チ此ノ考ヘ方ハ經濟学ニ於ケル考ヘ方ニ法律的ナ解釈ヲ与ヘタモノト云ヒ
得ル。法律が貨幣ニ關係スル場合ハ先ヅ支拂問題ニ関シテデアル。債務者が支
拂ヲシタカ否カヲ監視スル。法律が「貨幣トハ何デアアルカ」ト云フ問題ニ答ヘ

ントスレバ、其レハ貨幣ヲ表示セラレタル義務又ハ債務（例ヘバ百円ヲ支拂フベシ）が如何ニシテ履行サレタカヲ確定スル為メ起ル問題デアル、其レが適當ナ支拂手段デ為サレタカ否カノ問題デアル。法律家ニトツテハ貨幣ハ一ツノ支拂手段デアツテ、経済学デハ貨幣問題ハ別ナ表現ヲ有シテヤル。

之ハ経済上ノ作用（Funktion）カラ考察セネバナラス、貨幣が交換媒介（Zahlungsmittel）デアルコトハ、甲商品が直接ニ乙商品ト交換サレナイデ、



石ノ作用ヲ意味スルモノデアル
註



何レモ貨幣ト財貨トノ交換デアル。

従ツテ貨幣ヲ仲介トスル間接交換ハニツノ交換行為（其レハ常ニ商品ト貨幣トノ交換デアル）デアル。

然ウシテ部分的ナ交換ノ商品対貨幣ノ交換ハ、貨幣ニ依ル支拂関係デアルト云フ事ハ、経済上デハ何等特種ノ意義ヲ有ツモノデハナイ、交換ノ媒介ト云フ事ハ當然此ノニツノ部分ヲ包含スルモノデアツテ、支拂ト云フ觀念ハ此ノニ方面ニ対スル法律的ナ解釈ニ過ギナイモノデアル。

資本トシテノ職能

其ノ外ニ尚、貨幣ノ職能トシテハ、資本トシテノ職能ヲ舉ゲルモノガアル。貨幣経済（Geldwirtschaft）ノ発展ハ益々貨幣ノ用途ヲ広クシテ貨幣職能ト云フモノノ分化（differentiation）ヲ起サセルモノデアル。即チ本源的ナ性質（交換媒介）カラ価値ノ尺度トシテ（表示手段）トシテ用ヒラレ、更ニ支拂手段トシテ用ヒラレル様ニナルノデアル。又一方斯クノ如ク如何ナル物トデモ交換シ得ルト云フ事カラ之ヲ所有シテ居ル事ハ同時ニ如何ナル資本財トモ交換シ得ルカラ最モ自由ナル資本デアルト云ハレル。貨幣資本ハ資本ノ重要

ナル形態デアル。

蓋シ現在ノ資本主義社会デ資本が重要ナル職能ヲ有ツコトハ云フ迄モナイ事
ダガ、此ノ場合ニ於テ貨幣ト云フ形式デ之ヲ所有スルト云フ場合ニ於テハ、如
何ナル商品（資本財）ニモ転化シ得ルか故ニ、此ノ意味ニ於テ貨幣ノ一職能ヲ
以テ資本トシテノ職能ヲ舉ゲルコトが出来ル。此ノ職能ハ言フ迄モナク本源の
ノ職能ト云ヒ得ナイ。交換ノ媒介ト云フ事カラ引キ出サレタ派生的職能ナルコ
トハ云フ迄モナイ。

消費貸借ノ目的物トナルト云フ職能

又、更ニ人ニヨツテハ貨幣ハ消費貸借ノ目的物トナル職能ヲ有スルト云フ人
ガアル。即チ我々が貸借スル場合、普通ノ形式ハ先ヅ貨幣ノ貸借デアル。之ハ
何故デアルカト云ヘバ、貨幣ヲ借リル場合ニ、自分ノ欲スル如何ナル品物ニモ
変ヘ得ル。之ハ交換媒介カラノ派生的職能デアル。

財産ノ一方的給付手段

更ニ財産ノ一方的給付ノ手段ヲ舉止スル人がアル。例ヘバ贈與、ソノ外罰金、
租税、賠償等ノ場合デアル。此等ノ場合、矢張り貨幣が用ヒラレルガ、之ハ先
述ノ支拂手段ト考ヘルコトト何等異ル所ハナイ。矢張り交換媒介ノ職能カラ引
キ出サレル用法ト云ヘル。

信用制度ノ基礎

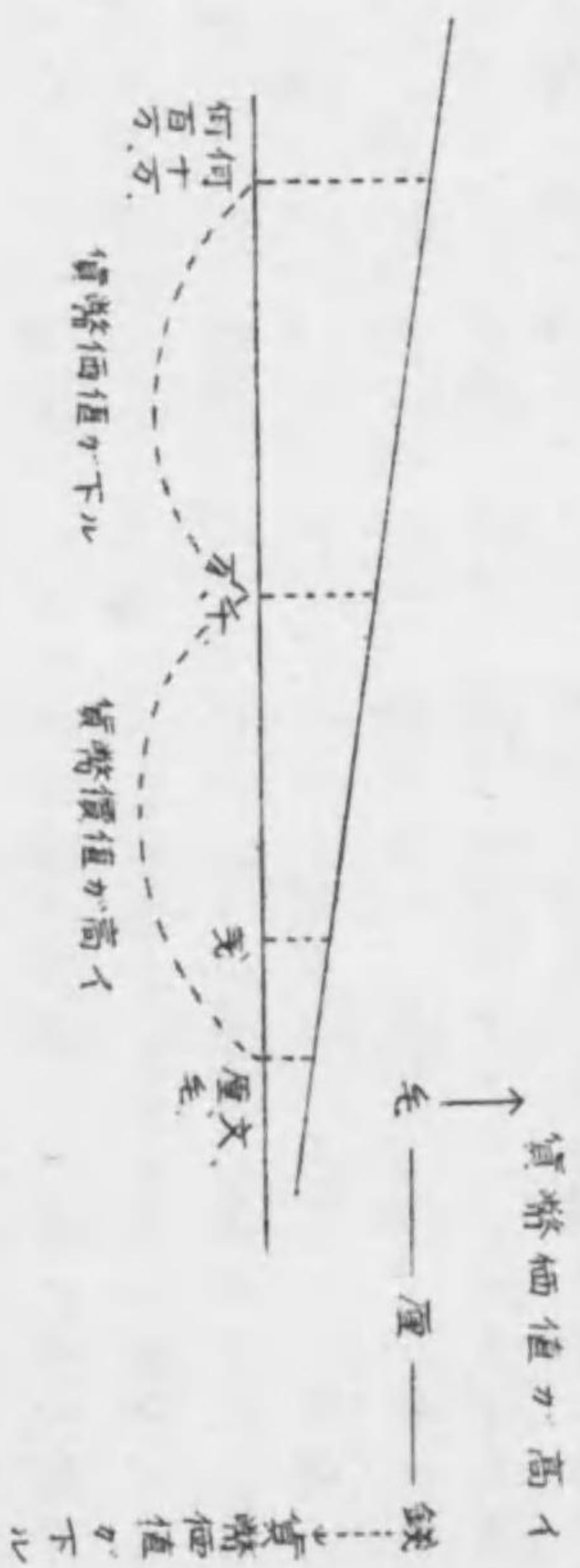
其ノ外、信用制度ノ基礎ヲ舉ゲルコトガアル。現在ニ於ケル信用組織ハ常ニ
其ノ根柢ニ於テ貨幣ヲ必要トスルモノデアル。紙幣発行ト云フ場合、其ノ基礎
ハ現在日本ノ如キハ金貨デアル。其ノ外、例ヘバ預金組織（例ヘバ銀行組織）
ハ其ノ根柢ハ支拂手段ナル貨幣デアル。之等ノ信用制度ノ基礎ヲ考ヘルト、貨
幣ハ其ノ根柢ニ於テ信用制度が成立シテ居ルト云ヘル。即チ、貨幣ヲ以テ信用
制度ノ基礎タル職能ヲ果タスト云ヘル。此ノ考ヘ方ハ漸次変化スル。紙幣発行
ハ金貨ナラズトモ貨幣ナラザル素材即チ地金デモ良ク、又金為替デモ可ナリト
云フ考ヘ方デアル。

價値貯藏ノ手段 (Wertbewahrungsmittel)

今一ツニハ貨幣ノ職能トシテ價値貯藏ノ手段 (Store of value) ナリト云フ。ルコトが出来ル。例ヘバ *gemans* ハ貨幣ヲ以テ價値貯藏手段デアルト云フ。即チ人ハ或ル其ノ人ノ所有スル財産ヲ最小量ニ壓縮シテ一時之ヲ蓄藏 (*hoarding*) 退藏・蓄藏・死藏スルト云フ。或ヒハ之ヲ携帯シテ移動スル場合ニハ嵩モ大キヤモ目方モ比較的少ク、而モ價値ハ高イモノデアアル。又此ノ場合、貨幣が役立ツノデアツテ、斯ノ如キ場合ニ總テノ物ヲ貨幣ニ変ヘル。之ヲ蓄藏シ之ヲ移動セシメルコトが極メテ便利デアルト云ハネバナラヌ。之ハ即チ移動・搬住スル場合ニ家財道具ヲ賣拂ツテ持ツテ行ク。之ハ夫張り本源ノ職能トハ云ヘナイ。貨幣が支拂手段ナル職能カラ派生シテ職能デアアル。其レが如何ナル商岳トモ代ハリ得ルカラ、ソコデ其ノ價値ヲ具体化スル事が出来ルカラ、價値貯藏ノ手段トシテ役立ツノデアアル。

之ハ又價値移動ノ手段ト云フ言葉ト同一デアアル。然シ、此ノ價値貯藏ノ手段ハ完全ニハ行ヘナイ。貨幣ノ價値ハ一定不変デア

タク、通貨膨脹 (*inflation*) 又ハ通貨収縮 (*deflation*) 等デ購買力即チ價値ハ増減スル。全体カラ云ヘバ、貨幣價値 (對内價値) ハ減少スル。之ハ經濟社会ノ進展ニ伴ヒ貨幣ノ單位が変化スル。價値が一定不変デアルト云フノハ相対的デ、短期間ニ於テノミ然ルノデアツテ、長期間ニ涉ツテハ貨幣價値ハ低落スルカラ、完全ナル價値貯藏手段デアリ得ナイ。



獨逸デ塔ノ中ニ金ヲ貯ヘテ置イタ。戰爭準備金トシテ價値ヲ貯藏シテ置イタ。世人ハ既ニ歐洲大戰前ニ獨逸ハ夙ニ戰意ガアツタト

貨幣ノ國際的職能

最後ニ今一ツ挙ゲルノハ、山崎覺次郎博士ノ言ハレル貨幣ノ職能ノ一ツトシテ國際的職能 (*International Function*) ヲ舉ゲルコトが出来ル。之ヲ説明スルニ、外國ニ対シテ支払フノニ普通ノ商品ヲ送ル場合ニハ到着地ヲ幾何ノ金額トナルカハ不定デアルガ、貨幣ヲ以テスレバ自國ノ貨幣ト外國貨幣トノ間ニ一定ノ比價が成立スル場合ニハ、先述ノ様ナ不定ノ不便が無クナル。又外國カラ此方へ支拂ヲ受ケル場合モ同様デアル。例ヘバ本邦ノ金貨ハ當然ニ米國ノ金貨ニ換ヘ得ルヲ以テ (兩國ノ金貨ノ純分量ヲ測リ之ヲ鑄造シテ又鑄造スレバヨイ。日本ノ金貨ヲ米國ノ金貨ニ鑄造シ直ス事が出来ル) 兩國ノ貨幣ノ間ニハ其ノ含有スル金ノ純分量ヲ標準トシテ日本ノ貨幣一円ハ米國ノ貨幣ノ二分一弗ナレバ (尤モ今ハトロ) 平価切下ゲテ断行シタカラ一弗ハ一円拾八錢デアルガ) 之ニ依ツテ一弗ハ大体二万円ヲ支払シ得ル事明白トナツタノデアル。即チ、此ノ意味ニ於テ貨幣ハ國際的ナ一ツノ支拂手段トシテノ職能ヲ

盛スト云フ。

此ノ意義ハ之ヲ解説スルニ、兩國ノ間ニ法定平価 (*mint par*) が成立スルコトヲ指稱スルモノデアル。此ノ法定平價ハ兩國ノ間ニ於テ同様ノ本位金屬ヲ以テスル事ヲ以テ前提トスルモノデアツテ、其ノ上テ兩國ノ貨幣法ヲ調べ貨幣ノ含有スル金屬ヲ比較シテ比價ヲ定メ得ルノデアル。

若シ本位金屬ヲ異ニスル場合ハ、斯クノ如キ法定平價ヲ決定スル事ハ出来ナイ。例ヘバ、金本位國ト銀本位國トノ間ニ於テハ金本位國ノ銀本位國宛テノ金貨替ハ銀ノ相場ニ依ツテ影響ヲ蒙ルカラ平價 (*par*) ハ決定シ得ナイ。但シ現在ノ相場デマラウト云フ事ハ出来ル。

同一素材本位ノ場合ハ (例ヘバ日本ト米國ノ如キ何レモ金本位ノ場合、又支那ト印度又ハ波斯ノ如キ、何レモ銀本位制ノ場合) ハ兩者、比較デ藤メ *par* ヲ決定シ得ル。之ヲ貨幣ノ國際的職能ト稱スレバ以上ノ意味デ云ヒ得ルノデアル。之ハ本源的ナ職能デハナク、矢張り貨幣ノ一般の交換媒介ト云フ職能カラ派生スル職能デアル。

日本ノ貨幣デ外國ノ貨幣ヲ取得シ得ルノハ日本ノ貨幣ノ購買力デアリ、外國

ノ貨幣ヲ買フノハ、其ノ国内デ購買力ガアルカラデアル。
外国為替相場ハ一國貨幣デ外国貨幣ヲ買フ場合、之ニ依ツテ外国ノ支拂手段
ヲ買フ事、即チ兩者ニ於テ交換媒介物タル性質ヲ比較スル事デアリ、共ニ交換
媒介物タル職能ヲ前提トスル職能デアルト云ハネバナラス。

結論

ソコデ上述ノ如ク貨幣ノ職能ハ種々アルガ、之ヲ要約スレバ、本源の職能ハ
一般的交換媒介デアリ、之ハ貨幣ノ發生ヲ考フレバ当然デアル。其ノ他ノ種々
ナル職能ハ此ノ第一ノ本源の職能カラ説明シ得ルノデアツテ、其ノモノ自
体ノ獨立ト發生根據ヲ有タナイ派生的職能ト解スル事ニ依リ解紛ガツクノデア
ル。

第三節 貨幣ト財貨

斯クノ如クシテ見レバ、貨幣ト一般的商品トノ間ニ種々ナル差異ガアル。

其ノ相違ヲ指摘シ、貨幣ノ本質ヲ其ノ職能デ決定スルト共ニ、他財貨ト比較
スル事ニ依リ其ノ本質ヲ一層明ラカニスル。

先ヅ、貨幣職能ヲ以テ交換手段トスレバ、國民經濟上如何ナル意義ガアルカ。
又、財貨ト貨幣ノ相違ハ何デアルカ。
財貨ハ (i) 人間欲望ノ直接充足手段ト (ii) 人間欲望ノ間接充足手段トニ区
別スル事ガ出来ル。此ノ二種ニ區別スレバ、享樂財貨ハ (i) デアルト云ヒ得
ル。更ニ (ii) ノ場合ハ三ツニ分別シ得ル。

① 狭義ノ生産手段
之ハ器具・機械・原料・補助材料等デ或ル完成品ヲ製造シ、ソレカラ満
足ヲ得ル。

② 運搬手段 *Transportmittel*
財貨ヲ一地方ヨリ他地方ヘ移ス財貨・設備デアツテ、鐵道・船舶・車輛
等ガアル。

③ 貨幣
此ノ財貨ハ分業ト私有財産制度ノ根據ノ上ニ立脚シ、交易ノ手段デアル。

此ノ貨幣ハ直接ニ吾々ノ消費ニ用ヒル事ハ出来ヌ。此ノ点デ貨幣ハ消費財ト
 ハ云ヒ得ナイ。即チ貨幣ハ其レヲ以テ直チニ食物トシ住居トシテ用ヒルコトハ
 出来ナイ。人が貨幣ヲ需要スル事ハ他ノ直接欲望満足ヲナシ得ル消費財ヲ取得
 シ得ル点ニアル。茲ニ即チ貨幣ノ職能ヲ見出し得ルノデアツテ、之ハ貨幣ノ職
 能ノ所デ論述シタ通りデアル。此ノ意味デーツノ手帳クルモノナルコトハ明白
 デアル。然シ器具・機械ノ様ニ直接ニ生産ニ役立つコトモ出来ヌ。貨幣ニ依ツ
 テ資本財タル生産財ヲ購入シ得ルノミデアル。此ノ意味デモ生産財ト同一視ス
 ル事ハ出来ヌ。

更ニ運搬手段トモ云ヘヌ。貨幣ヲ以テ車トカ、船・鉄道ト云フ事ハ出来ヌ。
 其知ニハ色々ナ相違ガアル。所謂斯クノ如キ運搬手段ハ物ノ位置ヲ変ヘルトイ
 フ場合デアル。

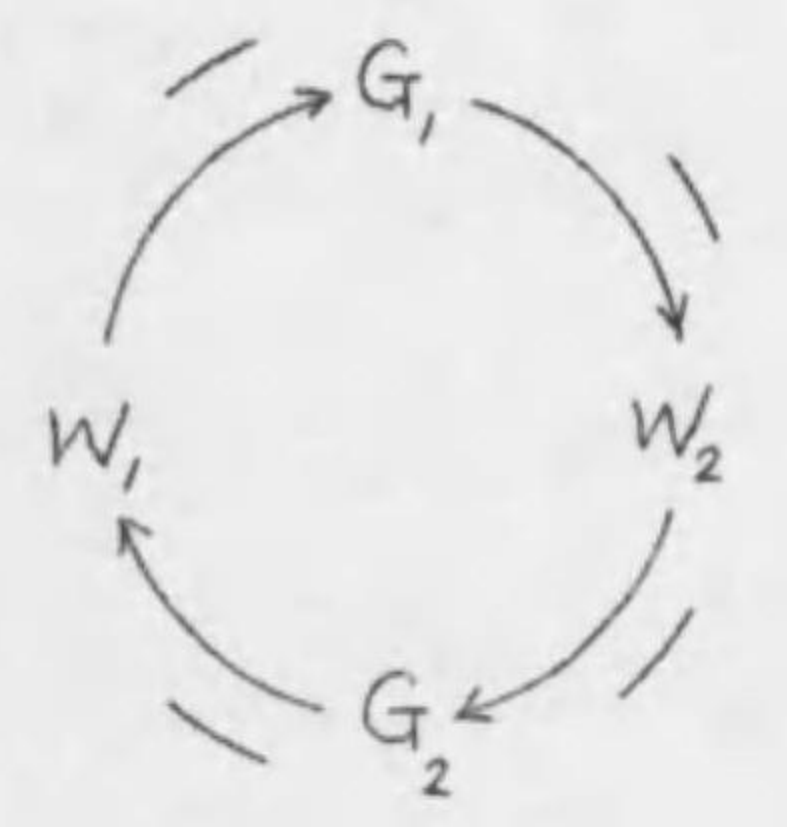
Helgenrich ハ其ノ著書 "Das Geld" ニ於テ「交換ノ人的仲介者
 (Zwischenglied) ハ商人デアリ、物的仲介者ハ貨幣デアル」ト云フ。

Karl Menger ハ「貨幣ハ永久ニ、他ノ財貨ハ暫時、商品タルノ性質ヲ有
 スル」ト述ベテキル。

Adam Smith ハ其ノ著 "Wealth of Nations" ニ於テ「各人ハ貨幣
 ニ因シテハ商人デアル。何人モ之ヲ再ビ賣却センガ為メニ購ヒ、貨幣ニ就イテ
 ハ最後ノ買手、消費者ハナイ」ト述ベテキル。

Ricardo ハ「貨幣ニツイテハ何人モ商人ナリ」ト、貨幣ノ一般商品ト異
 ル性質ヲ示シク言葉デ、一般商品ニ対シテ特殊ナ地位ヲ有ツモノト云ハネバナ
 ラヌ。

之ヲ要スルニ貨幣ハ生産財ト消費財ノ中間ニアツテ、交換過程ニ於ケル商品
 ノ流レヲ円滑ナラシメ、其ノ流レハ逆流スルモノデアル。



以上デ貨幣ト一般商品トノ区别点ヲ述ベタガ、更ニ兩者ノ差異ハ価値論デ問
題ニシタイト思フ。

一一〇

(五月十八日迄ノ讀義)

昭和十一年六月一日印刷
昭和十一年六月五日發行
(非賣品)

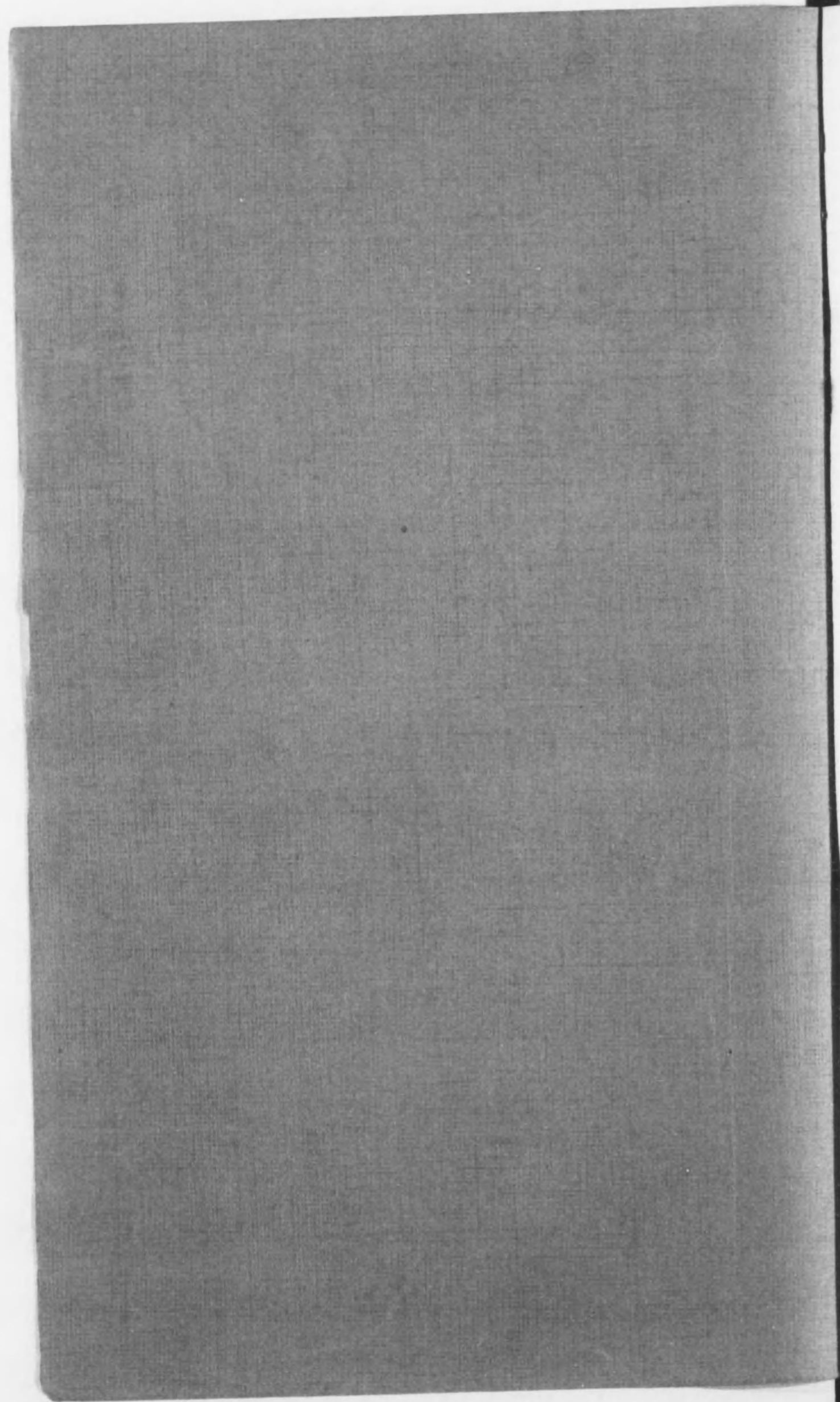
編輯兼發行者 百瀬清 一

印刷所 文精社

東京市神田區駿河台二ノ六

發行所 文精社

電話神田二五七二番
振替東京七八三三番



終

